

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
公共	[公民]

履修学科	普通科
履修学年	第1学年
履修単位	2単位
教科書	改訂版 高等学校公共 これからの社会について考える (数研出版)
副教材	ニュービジョン公共 (浜島書店)

科目目標
<p>人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。</p> <p>(3) よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。</p>

学期	考査	単元名 (考査範囲)	学習活動	評価の観点		
				①	②	③
1 学 期	単 元 テ ス ト	巻頭特集 公共的な空間をつくる私たち SDGs 「5 ジェンダー平等を実現しよう」「16平和と公正をすべての人に」に関連	<ul style="list-style-type: none"> 青年期は自立や自律をはかる重要な時期であることを理解し、自らを成長させる人間としての在り方生き方とはどのようなものか主体的に追究する。 世界の文化や日本の文化について理解し、グローバル社会において、多文化尊重の姿勢を養う。また、世界の因習にも注目し、「許容できる文化」と「許容できない文化」の境界は何かを考察する。 	○	○	○
	期 末 考 査	第1章 公共的な空間における人間としての在り方生き方 SDGs 「12 つくる責任つかう責任」「13 気候変動に具体的な対策を」に関連	<ul style="list-style-type: none"> 地球環境問題、資源・エネルギー問題、生命科学や情報技術の進展などの諸課題を、選択・判断の手掛かりとなる考え方を使って、追究する。 	○	○	○

2 学 期	中間 考 査 期	第2章 公共的な空間における基本 原理 第3章 ルールをつくり守る私たち	<ul style="list-style-type: none"> 人間の尊厳と平等、民主主義、自由・権利と責任・義務について理解し、民主社会に主体的に生きる人間の在り方生き方について、思索を深める。 日本国憲法の基本原理と保障されている権利を理解し、自らの生き方と権利を結びつけて考える。 日常の買い物や銀行のクレジットカードを巡る身近な紛争状況を設定し、それを解決するためのルール作りを体験する。 裁判員制度創設の目的を理解し、裁判によって国民のどのような権利が守られているのかを考察する。 	○	○	○
	期 末 考 査	第4章 政治に参加する私たち	<ul style="list-style-type: none"> 模擬投票や模擬請願を体験し、地方自治や選挙の仕組み、政党の役割を考察する。 国際法の意義や国際紛争を解決する機関の役割を理解し、現代の国際紛争の解決への筋道を考察する。 	○	○	○

3 学 期	学 年 末 考 査	第5章 経済活動を行う私たち	<ul style="list-style-type: none"> 産業構造の変化や雇用・労働問題について理解し、AIやITなどの先端技術が発展する中で、自分の進路や職業選択について考察する。 市場経済のメカニズムや金融のしくみを理解する。 財政のしくみや社会保障について理解し、租税と社会保障の均衡を図る方策を考察する。 	○	○	○
	※	※学年末考査が終了した後の授業内容 課題探究編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな課題の中で、自己とのかかわりに注目して主体的に課題を選択し、探究する。 	○	○	○

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識するべきか）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。</p> <p>【評価の対象】 考査、確認テスト、レポート、授業中の取組状況等</p>	<p>現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を身に付けている。</p> <p>【評価の対象】 考査、確認テスト、レポート、プレゼンテーション、授業中の取組状況等</p>	<p>よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚を深めている。</p> <p>【評価の対象】 確認テスト、レポート、プレゼンテーション</p>

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）

確認テストや考査で結果が出せることが全てではありません。日々の授業の態度や取組を評価していきます。世の中のことに関心をもって「考える」こと、考えたことを「表現する」ことを重視します。表現方法はさまざまです。人前で自分の考えを発表できるようになってほしいところですが、それが苦手であれば、感想やレポートというかたちからスタートしましょう。

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
公共	[公民]

履修学科	総合学科
履修学年	第1学年
履修単位	3単位
教科書	改訂版 高等学校公共 これからの社会について考える (数研出版)
副教材	ニュービジョン公共 (浜島書店)

科目目標
<p>人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。</p> <p>(3) よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。</p>

学期	考査	単元名 (考査範囲)	学習活動	評価の観点		
				①	②	③
1学期	単元テスト	巻頭特集 公共的な空間をつくる私たち SDGs「5 ジェンダー平等を実現しよう」「16平和と公正をすべての人に」に関連	<ul style="list-style-type: none"> 青年期は自立や自律をはかる重要な時期であることを理解し、自らを成長させる人間としての在り方生き方とはどのようなものか主体的に追究する。 世界の文化や日本の文化についての理解を深め、グローバル社会において、多文化尊重の姿勢を養う。また、世界の因習にも注目し、「許容できる文化」と「許容できない文化」の境界は何かを考察する。 	○	○	○
	期末考査	第1章 公共的な空間における人間としての在り方生き方 SDGs「12 つくる責任つかう責任」「13 気候変動に具体的な対策を」に関連	<ul style="list-style-type: none"> 地球環境問題、資源・エネルギー問題、生命科学や情報技術の進展などの諸課題を、選択・判断の手掛かりとなる考え方をを使って、追究する。 	○	○	○

2 学 期	中 間 考 査	第2章 公共的な空間における基本 原理 第3章 ルールをつくり守る私たち	<ul style="list-style-type: none"> 人間の尊厳と平等、民主主義、自由・権利と責任・義務について理解し、民主社会に主体的に生きる人間の在り方生き方について、思索を深める。 日本国憲法の基本原理と保障されている権利を理解し、生き方と権利を結びつけて考える。 日常の買い物や銀行のクレジットカードを巡る身近な紛争状況を設定し、それを解決するためのルール作りを体験する。 裁判員制度創設の目的を理解し、裁判によって国民のどのような権利が守られているのかを考察する。 	○	○	○
	期 末 考 査	第4章 政治に参加する私たち	<ul style="list-style-type: none"> 模擬投票や模擬請願を体験し、地方自治や選挙の仕組み、政党の役割を考察する。 国際法の意義や国際紛争を解決する機関の役割を理解し、現代の国際紛争の解決への筋道を考察する。 	○	○	○

3 学 期	学 年 末 考 査	第5章 経済活動を行う私たち	<ul style="list-style-type: none"> 産業構造の変化や雇用・労働問題について理解し、AIやITなどの先端技術が発展する中で、自分の進路や職業選択について考察する。 市場経済のメカニズムや金融のしくみを理解する。 財政のしくみや社会保障について理解し、租税と社会保障の均衡を図る方策を考察する。 	○	○	○
	※	※学年末考査が終了した後の授業内容 課題探究編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな課題の中で、自己とのかかわりに注目して主体的に課題を選択し、探究する。 	○	○	○

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。</p> <p>【評価の対象】 考査、確認テスト、レポート、授業中の取組状況等</p>	<p>現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を身に付けている。</p> <p>【評価の対象】 考査、確認テスト、レポート、プレゼンテーション、授業中の取組状況等</p>	<p>よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚を深めている。</p> <p>【評価の対象】 確認テスト、レポート、プレゼンテーション</p>

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）

確認テストや考査で結果が出せることが全てではありません。日々の授業の態度や取組を評価していきます。世の中のことに興味をもって「考える」こと、考えたことを「表現する」ことを重視します。表現方法はさまざまです。人前で自分の考えを発表できるようになってほしいところですが、それが苦手であれば、感想やレポートというかたちからスタートしましょう。

鹿児島県立徳之島高等学校シラバス	
地理総合	[地理歴史]
履修学科	普通科
履修学年	第1学年
履修単位	2単位
教科書	『高等学校 地理総合－世界を学び、地域をつくる』（第一学習社） 『新詳高等地図』（帝国書院）
副教材	2026 地理総合演習ノート（啓隆社） 新詳地理資料 COMPLETE2026（帝国書院）

科目目標
<p>社会的諸事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>(3) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。</p>

学期	単元名（考査範囲）	学習活動
1 学 期	第1編 1章 地図や地理情報システムと現代世界 1節 球面上の世界と地図	地球上の位置は緯度や経度で表すことができる。地球上の位置の違いは、私たちの生活にどのような影響を与えているのだろうか。また、時差は私たちの生活にどのように結び付いているのだろうか。
	(1) 目的地への行き方	【評価の観点】 ① 地図を持たない人々の生活を想像し、地図の有用性に気づくとともに、利用しやすい工夫が現在まで続けられていることを理解する。
	(2) 地球上の位置	① 緯度・経度の基本的なしくみ、緯度の違いが生活に与える影響について理解している。 ② 緯度・経度の基本的なしくみ、緯度の違いが生活に与える影響について、多面的・多角的に考察し、表現している。
	(3) 世界の時差	① 時差のしくみ、時差が生活に与える影響について理解している。 ② 時差のしくみ、時差が生活に与える影響について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 時差のしくみ、時差が生活に与える影響について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
	(4) 世界地図の見方・使い方	① 球体の地球と平面の地図、さまざまな地図投影法(図法)について理解している。 ② 球体の地球と平面の地図、さまざまな地図投影法(図法)について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 球体の地球と平面の地図、さまざまな地図投影法(図法)について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
	(5) 地図から読み取る情報	① 身の回りの主題図やさまざまな一般図の表現方法や用途について理解している。 ② 身の回りの主題図やさまざまな一般図の表現方法や用途について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 身の回りの主題図やさまざまな一般図の表現方法や用途について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
	(6) デジタル化された地図 (7) 地理情報システムの活用	① 地理情報システム(GIS)のしくみやこれを支える技術、GISの活用場面について理解しており、基礎的・基本的な技能を身に付けている。 ② 地理情報システム(GIS)のしくみやこれを支える技術、GISの活用場面について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 地理情報システム(GIS)のしくみやこれを支える技術、GISの活用場面について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

1 学 期	2節 国家の結びつきとグローバル化する社会	世界にはさまざまな国家がある。国家の領域や国境はどのように定まっているのだろうか。また、日本の位置や領域にはどのような特徴があるのだろうか。
	(1) 国家の領域と国境	【評価の観点】 ① 国境の種類、国家の領域、国家の主権について理解している。 ② 国境の種類、国家の領域、国家の主権について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 国境の種類、国家の領域、国家の主権について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
	(2) 日本の領域とさまざまな領土問題	① 日本の位置と領域、排他的経済水域の特徴、日本の領土をめぐる問題について理解している。 ② 日本の位置と領域、排他的経済水域の特徴、日本の領土をめぐる問題について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 日本の位置と領域、排他的経済水域の特徴、日本の領土をめぐる問題について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
	(3) 国家をこえた結びつき SDGs 番号 16：平和と公正をすべてのひとに	① 国際関係と紛争の変化、国連が果たす役割、経済のグローバル化と地域ごとの経済的な結びつきについて理解している。 ② 国際関係と紛争の変化、国連が果たす役割、経済のグローバル化と地域ごとの経済的な結びつきについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 国際関係と紛争の変化、国連が果たす役割、経済のグローバル化と地域ごとの経済的な結びつきについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
	(4) 交通機関の発達と縮小する世界	① 世界を結ぶ航空交通の発達、貿易を支える海上交通の発達、陸上交通の発達と変化について理解している。 ② 世界を結ぶ航空交通の発達、貿易を支える海上交通の発達、陸上交通の発達と変化について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 世界を結ぶ航空交通の発達、貿易を支える海上交通の発達、陸上交通の発達と変化について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
	(5) 情報・通信で一体化する世界	① 通信技術の発達と一体化する世界、情報通信技術の発達で変化する生活行動、生み出される格差について理解している。 ② 通信技術の発達と一体化する世界、情報通信技術の発達で変化する生活行動、情報通信技術が生み出す格差について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 通信技術の発達と一体化する世界、情報通信技術の発達で変化する生活行動、情報通信技術が生み出す格差について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
	(6) 拡大する世界の貿易と物流	① 暮らしを支える貿易、貿易の変化と国際分業の成立、自由化する世界の貿易について理解している。 ② 暮らしを支える貿易、貿易の変化と国際分業の成立、自由化する世界の貿易について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 暮らしを支える貿易、貿易の変化と国際分業の成立、自由化する世界の貿易について、よりよい社会の実現を視野にして課題を主体的に追究、解決しようとしている。
	(7) グローバル化と人の移動による結びつき	① 多様なアイデンティティを持つ世界の人々と共生していくために他者の文化を尊重し、自らの文化について理解している。 ② 多様なアイデンティティを持つ世界の人々と共生していくために他者の文化を尊重し、自らの文化について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 多様なアイデンティティを持つ世界の人々と共生していくために、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
1学期の評価方法	授業態度、パフォーマンス課題、定期考査	

2 学 期	第2編 国際理解と国際協力 1章 生活・文化の多様性と国際理解	地球上には、高く険しい山脈や広大な平原、深い谷などの多様な地形がある。人々はこうした地形とどのように関わっているのだろうか。そして、世界各地ではどのような生活が営まれているのだろうか。
	(1) 世界の生活・文化を写真でつかもう	【評価の観点】 ① 地理的環境によって人々の生活様式の地域的差異が生じていることを理解する。 ② 世界の生活・文化を示した写真を閲覧しながら、写真中の地理的環境を読み取ることができる。
	(2) 人々の生活に彩りを与える気候 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">SDGs 番号 13：気候変動に具体的な対策を</div>	① 気候(熱帯・乾燥帯・温帯・冷帯・寒帯)が生活に与える影響、気温のしくみと分布の特徴、風(大気大循環・季節風)のしくみと風が及ぼす生活への影響、降水のしくみと分布の特徴について理解している。 ② 気候(熱帯・乾燥帯・温帯・冷帯・寒帯)が生活に与える影響、気温のしくみと分布の特徴、風(大気大循環・季節風)のしくみと風が及ぼす生活への影響、降水のしくみと分布の特徴について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 気候(熱帯・乾燥帯・温帯・冷帯・寒帯)が生活に与える影響、気温のしくみと分布の特徴、風(大気大循環・季節風)のしくみと風が及ぼす生活への影響、降水のしくみと分布の特徴について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
	(3) 「衣」から見る世界 (4) 「食」から見る世界 (5) 「住」から見る世界	① 自然環境や社会環境などを反映して形成されてきた伝統的な衣食住の生活文化にはどのような傾向があり、世界的な画一化の動きとどのように関わっているかについて理解している。 ② 自然環境や社会環境などを反映して形成されてきた伝統的な衣食住の生活文化にはどのような傾向があり、世界的な画一化の動きとどのように関わっているかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 衣食住について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
	(6) 暮らしを豊かにする産業	① 資源・エネルギーや農業・工業などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性や、資源・エネルギー、食料問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解している。 ② 資源・エネルギーや農業・工業などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 資源、産業について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
	(7) 宗教と人々の暮らし	① 宗教の食生活への影響、宗教と生活の関わりについて理解している。 ② 宗教の食生活への影響、宗教と生活の関わりについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 宗教の食生活への影響、宗教と生活の関わりについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
	(8) 暮らしを楽しむための文化 (9) 多様性に富んだ世界の人々との共生	① 祭りやスポーツ、音楽などの伝統と現代社会の影響を受け、変化が見られる事例を学び、他者の文化を尊重するとともに、自らの文化について理解している。 ② 祭りやスポーツ、音楽などの伝統と現代社会の影響を受け、変化が見られる事例を学び、他者の文化を尊重するとともに、自らの文化について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 祭りやスポーツ、音楽などの伝統と現代社会の影響を受け、変化が見られる事例を学び、者の文化を尊重するとともに、自らの文化について、主体的に追究しようとしている。
	第2編 国際理解と国際協力 2章 地球的課題と国際協力 1節 持続可能な社会を目指して <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">SDGs 番号 13：気候変動に具体的な対策を 14：海の豊かさを守ろう 15：陸の豊かさを守ろう</div>	私たちが住む地球の各地では、人間の経済活動などにより、さまざまな地球環境問題が生じている。世界ではどのような地球環境問題がみられ、どのような取り組みが行われているのだろうか。
	(1) 持続可能な開発目標(SDGs) (2) 地球的課題の地理的な側面	【評価の観点】 ① 地球的課題の背景にある経済格差、地球的課題の解決に向けての取り組みや私たちにできることについて理解している。 ② 地球的課題の背景にある経済格差、地球的課題の解決に向けての取り組みや私たちにできることについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 地球的課題の背景にある経済格差、地球的課題の解決に向けての取り組みや私たちにできることについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

2 学 期	2節 すべての人々の尊厳と平等が守られた社会に向けて <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">SDGs 番号 1: 貧困をなくそう 2: 飢餓をゼロに 10: 人や国の不平等をなくそう 16: 平和と公正をすべてのひとに</div>	現在、直面している地球的課題にはどのようなものがあるかに注目し、それらは相互に関連し、地域によって現れ方が異なることを、貧困、人口、食料、水資源、健康福祉、教育・ジェンダーなどの問題解決のためにどのような取り組みが行われているのだろうか。
	(1) 貧困問題 (2) 人口問題 (3) 食料問題 (4) 持続可能な水の利用 (5) 健康・福祉問題 (6) 教育・ジェンダー問題	【評価の観点】 ① 世界各地で見られる貧困、人口、食料、水資源、健康福祉、教育・ジェンダーについて、地球的課題の各地で共通する傾向性や課題について知り、その解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取り組みや国際協力が必要であることなどについて理解する。 ② 世界各地で見られる貧困、人口、食料、水資源、健康福祉、教育・ジェンダーについて、地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ③ 世界各地で見られる貧困、人口、食料、水資源、健康福祉、教育・ジェンダーについて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。
	2学期の評価方法	授業態度、パフォーマンス課題、定期考査

3 学 期	第3編 持続可能な地域づくりと私たち 1章 自然環境と防災	世界や日本の各地で発生する自然災害は、その地域の地形や気候といった自然環境と密接に結び付いている。日本の地形や気候には、どのような特徴があるのだろうか。
	(1) 地球規模で見る地形の姿と自然災害 (2) 人々の暮らしを取りまく自然環境	【評価の観点】 ① 世界の大地形、日本の地体構造、日本の気候について理解している。 ② 日本の地体構造、日本の気候について多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 世界の大地形、日本の地体構造、日本の気候の概観について、主体的に追究しようとしている。
	(3) 変動帯の自然と防災 (4) 湿潤地域の自然と防災	① 地震の種類と特徴、火山の分布・恩恵・災害の特徴、風水害の特徴、積雪による災害など、地域で異なる災害について理解しており、地理的技能を身に付けている。 ② 地震の種類と特徴、火山の分布・恩恵・災害の特徴、風水害の特徴、積雪による災害など、地域で異なる災害について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 地震の種類と特徴、火山の分布・恩恵・災害の特徴、風水害の特徴、積雪による災害など、地域で異なる災害について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
	(5) 私たちができる災害への備え	① 自らが住む地域の防災について、自助・共助・公助、復旧・復興の取り組みについて理解しており、地理的技能を身に付けている。 ② 自らが住む地域の防災について、自助・共助・公助、復旧・復興の取り組みや、ハザードマップや緊急地震速報の有用性を認識するとともに、災害に見舞われた際になるべく減災できるような取り組みについて、協働しながら多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 自らが住む地域の防災について、自助・共助・公助、復旧・復興の取り組みについて、これまで学んだ対策を組み合わせて備えるために必要な行動について、主体的に追究、解決しようとしている。
3学期の評価方法	授業態度、パフォーマンス課題、定期考査	

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識するべきか）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付けている。 【評価の対象】 定期考査・単元テスト 授業中の取組状況等	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。 【評価の対象】 定期考査・単元テスト 授業中の取組状況等	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするこの大切さについての自覚などを深める。 【評価の対象】 レポート、パフォーマンス課題

授業を受けるときの約束事・学習の方法・成績について

【授業の受け方】

- ① アクティブラーニングの授業であるため、グループで討議等を行います。
- ② 授業中は「なぜ？(Why 思考)」を大切にすること。
- ③ 社会参画していく上で、個々人で地理的諸課題の解決策を考えながら、これら問題を解決するために我々自身でできることなど自分ごととして考えていきましょう。

【評価について】

- ① 知識・技能:定期考査、授業中の取組状況等
- ② 思考・判断・表現:定期考査、授業中の取組状況等
- ③ 主体的に学習に取り組む態度:授業ノート、パフォーマンス課題

【ノート・プリントの書き方】

メモを残しておくことが大切です。授業後に調べたり、質問したりすることで、より確かな知識となります。メモを取りやすいように大きな付箋紙を準備して気になったことはその都度書いて貼り、整理しておきましょう。自分で考えたり、感じたり、疑問に思ったりしたことが大変重要です。

【勉強の進め方】

日々の授業の内容が基本です。必ず復習をして授業の内容を理解してください。

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
歴史総合	[地理歴史]

履修学科	普通科
履修学年	第1学年
履修単位	2単位
教科書	高等学校 改訂版 新歴史総合 過去との対話、つなぐ未来 (第一学習社)
副教材	明解歴史総合図説 シンフォニア (帝国書院)

科目目標
<p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界との中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>(3) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>

学期	考査	単元名 (考査範囲)	学習活動	評価の観点		
				①	②	③
1 学 期	単元テスト	第1章 近代化と私たち 1 18世紀のアジアの繁栄	・交通と貿易、産業と人口、権利意識と政治参加や国民の義務、学校教育、労働と家族、移民などに関する資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身につける。	○	○	○
	期末考査	2 工業化の進展と国民国家の建設 3 結びつく世界と日本の開国 4 帝国主義とアジア諸国の変容	・18世紀のアジアや日本における生産と流通、アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易などを基に、18世紀のアジアの経済と社会を理解する。 ・18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向、日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定などを基に、立憲体制と国民国家の形成を理解する。	○	○	○
2 学 期		第2章 国際秩序の変化や大衆化と私たち 1 第一次世界大戦と大衆社会	・国際関係の緊密化、アメリカ合衆国とソヴィエト連邦の台頭、植民地の独立、大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化、生活様式の変化などに関する資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身につける。	○	○	○

2 学 期	中間 考 査	<p>SDGs番号5・10：ジェンダー平等を実現しよう・人や国の不平等をなくそう</p> <p>ひとりの人間としての権利や自由を奪われた奴隷という存在は、様々な地域で見られる。19世紀から廃止の流れが広がったが差別という形で根強く残っている。このような事例をもとに現代においてどのような差別があり、私たちはどう行動していくべきかを考える。</p>				
		<p>2 経済危機と第二次世界大戦</p>	<p>・第二次世界大戦の展開、国際連合と国際経済体制、冷戦の始まりとアジア諸国の動向、戦後改革と日本国憲法の制定、平和条約と日本の独立の回復などを基に、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解する。</p>	○	○	○
3 学 期	期 末 考 査	<p>SDGs番号16：平和と公正をすべての人に</p> <p>何らかの事情（政変、戦争、飢餓、疫病など）で生まれ育った国を離れて生活する移民について理解させる。ユダヤ人、南部イタリアの人々、日系移民、中国系移民の歴史から移民が移住先に求めたことを考察させる。また、今後増えていくであろう外国の人々といかに共生していくか考えさせる。</p>				
		<p>3 第二次世界大戦後の世界と日本</p>	<p>・第二次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p>	○	○	○
3 学 期	学 年 末 考 査	<p>第3章 グローバル化と私たち</p>	<p>・脱植民地化とアジア・アフリカ諸国、冷戦下の地域紛争、先進国の政治の動向、軍備拡張や核兵器の管理などを基に国際政治の変容を理解する。</p>			
		<p>1 冷戦と植民地化・第三世界の台頭</p> <p>2 世界秩序の変容と日本</p>	<p>・西ヨーロッパや東南アジアの地域連携、計画経済とその波及、日本の高度経済成長などを基に、世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会を理解する。</p> <p>・持続可能な社会の実現を視野に入れ、自ら主題を設定し、歴史的経緯を踏まえて、現代的な諸課題を理解する。</p> <p>・世界遺産に登録されている鹿児島県内の歴史的建造物や自然について、その世界遺産が持つ意義を調べ、歴史総合で学んだ内容との関連を意識して発表（プレゼンテーション）を行う。</p>	○	○	○

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている。</p> <p>【評価の対象】 単元テスト、考査、発表、授業中の取組状況等</p>	<p>近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身につけている。</p> <p>【評価の対象】 単元テスト、考査、発表、授業中の取組状況等</p>	<p>近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度や、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを身につけている。</p> <p>【評価の対象】 単元テスト、考査、発表</p>
担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）		
<ol style="list-style-type: none"> 1 授業には集中して臨みましょう。授業者の発言もノートにメモを取りましょう。 2 主体的に学習に取り組む態度は様々な方法で評価されます。発表や課題の提出などに主体的に取り組みましょう。 3 授業中は「なぜ？」を大切にすること。 		

鹿児島県立徳之島高等学校シラバス

世界史探究

[地理歴史]

科目目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

履修学科	普通科
履修学年	第2学年
履修単位	2単位
教科書	『詳説 世界史』(山川出版社)
副教材	『詳説世界史ノート』(山川出版社) 『詳説世界史図録』(山川出版社) 『詳説世界史 10分間テスト』(山川出版社)

学期	考査	単元名 (考査範囲)	学習活動	評価の観点		
				①	②	③
1 学 期	単 元 テ ス ト	第I部 諸地域の歴史的特質の形成 第1章 文明の成立古代文明の特質 1 文明の誕生 2 古代オリエント文明とその周辺 3 南アジアの古代文明	<ul style="list-style-type: none"> ・ オリエント文明、インダス文明、中華文明などを基に、古代文明の歴史的特質を理解する。 ・ 古代文明に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、自然環境と生活や文化との関連性、農耕、牧畜の意義などを多面的・多角的に考察し、表現する。 	○	○	○
	期 末 考 査	4 中国の古代文明 5 南北アメリカ文明		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>SDGs番号5 ジェンダー平等を実現しよう 古代中国で行われた纏足を示すことで古代中国は極端な男尊女卑社会であったことを理解させる。また、ここから現代社会が抱える男女間不平等の問題について考察させる。</p> </div>		

学期	考査	単元名（考査範囲）	学習活動	評価の観点		
				①	②	③
2 学 期	中 間 考 査	第 I 部 諸地域の歴史的特質の形成 第 2 章 中央ユーラシアと東アジア世界 1 中央ユーラシア 2 秦・漢帝国 3 中国の動乱と変容 4 東アジア文化圏の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 秦、漢と遊牧国家、唐と近隣諸国の国家の動向などを基に、東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質を理解する。 ・ 東アジアと中央ユーラシアの歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、唐の政治体制と社会や文化の特色、唐と近隣諸国との関係、遊牧民の社会の特徴と周辺諸地域との関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。 	○	○	○
		第 3 章 南アジア世界と東南アジア世界の展開 1 仏教の成立と南アジアの統一国家 2 インドの古典文化とヒンドゥー教の成立 3 東南アジア世界の形成と展開	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仏教の成立とヒンドゥー教、南アジアと東南アジアの諸国家などを基に、南アジアと東南アジアの歴史的特質を理解する。 ・ 南アジア、東南アジアの歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、宗教や文化の特色、周辺地域との関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。 	○	○	○
	期 末 考 査	第 I 部 諸地域の歴史的特質の形成 第 4 章 西アジアと地中海周辺の国家形成 1 イラン諸国家の興亡とイラン文明 2 ギリシア人の都市国家 3 ローマと地中海支配 4 キリスト教の成立と発展	<ul style="list-style-type: none"> ・ 西アジアと地中海周辺の諸国家、キリスト教とイスラームの成立とそれらを基盤とした国家の形成などを基に、西アジアと地中海周辺の歴史的特質を理解する。 	○	○	○
		<p>SDG s 番号 1 : 貧困をなくそう 古代ギリシア・ローマの歴史における奴隷制を理解させる。背景には戦争が絡んでいるが、現代社会の貧困戦争も原因となっているものが多い。古代ギリシア・ローマの奴隷制の歴史から「貧困とは何か?」、「皆がより良く生きていくためには?」について考察させる。</p>				
		第 5 章 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成 1 アラブの大征服とイスラーム政権の成立 2 ヨーロッパ世界の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 西アジア社会と地中海周辺の歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、西アジアと地中海周辺の諸国家の社会や文化の特色、キリスト教徒イスラームを基盤とした国家の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現する。 	○	○	○
		<p>SDG s 番号 10 : 人や国の不平等をなくそう イスラーム教はもともと「すべての人が平等である」ことを説いた宗教であった。現代においても拡大する貧富の格差が原因となってヨーロッパから I S I L へ亡命する人々がいた。このような宗教、歴史からすべての人や国の平等を考えたイスラーム教という宗教について考え、現代社会が抱える不平等をいかに是正するか考察させる。</p>				

学期	考査	単元名（考査範囲）	学習活動	評価の観点		
				①	②	③
3 学 期	学 年 末 考 査	第Ⅱ部 諸地域の交流・再編 第6章 イスラーム教の伝播と 西アジアの動向 1 イスラーム教の諸地域への 伝播 2 西アジアの動向	・ 西アジア社会の動向とアフリカ、アジアへの イスラームの伝播、ヨーロッパ封建社会とその 展開、宋の社会とモンゴル帝国の拡大などを基 に、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がり を構造的に理解する。	○	○	○
		第7章 ヨーロッパ世界の変容と 展開 1 西ヨーロッパの封建社会と その展開 2 東ヨーロッパ世界の展開 3 西ヨーロッパ世界の変容 4 西ヨーロッパの中世文化	・ 諸地域の交易とヨーロッパの進出に関わる 諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の 関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題 を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりし て読み解き、アジア海域での交易の特徴、ユー ラシアとアメリカ大陸間の交易の特徴とアメ リカ大陸の変容などを多面的・多角的に考察 し、表現する。	○	○	○

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能が身に付いているか。</p> <p>【評価の対象】 単元テスト、考査、発表、 授業中の取組状況等</p>	<p>世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力が身に付いているか。</p> <p>【評価の対象】 単元テスト、考査、発表、 授業中の取組状況等</p>	<p>世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚が深まっているか。</p> <p>【評価の対象】 単元テスト、考査、発表</p>
担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）		
<p>1 詳説世界史ノートを利用した予習を土台にして、授業の中では思考力や判断力、表現力を養う活動を中心に行っていきます。授業時に配布される授業計画表に基づいて、主体的かつ計画的に学習に臨むようにしましょう。</p> <p>2 主体的に学習に取り組む態度は様々な方法で評価されます。発表や課題の提出などに主体的に取り組みましょう。</p> <p>3 授業中は「なぜ？」を大切にすること。</p> <p>4 学習に取り組む中で疑問が生じた場合は、授業時や放課後を活用して積極的に質問をしましょう。</p>		

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
地理探究	[地理歴史]

科目目標
<p>社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的、地誌的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>(3) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深める。</p>

履修学科	普通科
履修学年	第2学年
履修単位	2単位
教科書	「新詳地理探究」(帝国書院) 「新詳高等地図」(帝国書院)
副教材	新詳地理資料 COMPLETE 2025 (帝国書院) 新地理要点ノート(啓隆社) 新地理の研究(啓隆社)

【評価の観点】 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

学期	考査	単元名(考査範囲)	学習内容
1学期	期末考査	第1部 現代世界の系統地理的考察 第1章 自然環境 1節 地形 1 地形の成因と地球表面の起伏 2 地球規模の大地形 3 河川流域と海岸にみられる小地形 4 そのほかの特徴的な小地形	地球表面には、地球規模の大地形や、河川が形成した小地形などのさまざまな地形がみられる。それぞれの地形には、どのような特徴や成因があり人間活動とどのように関わりを学ぶ。 【評価の観点】 ①地球規模の大地形や小地形などのさまざまな地形には、どのような特徴や成因があり、人間活動とどのように関わっているかについて理解することができたか。 ②地球規模の大地形や小地形などのさまざまな地形には、どのような特徴や成因があり、人間活動とどのように関わっているかについて、多面的・多角的に考察し、表現することができたか。 ③地形について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしたか。
		2節 気候 1 気候の成り立ち 2 気候と生態系 3 世界の気候区分 4 さまざまな気候帯 5 気候変動と異常気象	気温や降水量、風などの気候要素は地域によって異なるため、地球上の生態系はさまざまである。気候の違いは、どのような要因で生まれる。この要因により人々の生活にどのような影響を与えていることを学ぶ。 【評価の観点】 ①気温や降水量、風などを要素とする気候の違いは、どのような要因で生まれ、人々の生活にどのような影響を与えているかについて理解することができたか。 ②気温や降水量、風などを要素とする気候の違いは、どのような要因で生まれ、人々の生活にどのような影響を与えているかについて、多面的・多角的に考察し、表現することができたか。 ③気候について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしたか。
		3節 日本の自然環境 1 日本の地形 2 日本の気候 3 開発に伴う災害と防災・減災の取り組み	南北に細長い日本列島には、山地や平野、亜寒帯から亜熱帯にわたる気候など、多様な自然環境がみられる。日本の自然環境にはどのような特徴があり、その特徴は自然災害とどのように関係しているのだろうか。 【評価の観点】 ①日本列島の地形や気候など多様な自然環境にはどのような特徴があり、自然災害とどのように関係しているかについて理解することができたか。 ②日本列島の地形や気候など多様な自然環境にはどのような特徴があり、自然災害とどのように関係しているかについて、多面的・多角的に考察し、表現することができたか。 ③日本の自然環境について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしたか。
		4節 地球環境問題 1 地球環境問題とは 2 さまざまな地球環境問題 3 地球環境問題の解決に向けた取り組み SDGs 番号 13: 気候変動に具体的な対策を 14: 海の豊かさを守ろう 15: 陸の豊かさを守ろう	地球上では、さまざまな環境問題が発生している。地球環境問題を解決して、地球と人類が共存できる持続可能な社会をつくり出すためには、どのような考え方で、どのような取り組みをすればよいのだろうか。 【評価の観点】 ①さまざまな地球環境問題を解決して、地球と人類が共存できる持続可能な社会をつくり出すためには、どのような考え方で、どのような取り組みをすればよいかについて理解することができたか。 ②さまざまな地球環境問題を解決して、地球と人類が共存できる持続可能な社会をつくり出すためには、どのような考え方で、どのような取り組みをすればよいかについて、多面的・多角的に考察し、表現することができたか。 ③地球環境問題について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしたか。

2 学 期	課題 調査	・1学期の復習	・夏季課題より出題
	中間 考 査	第2章 資源と産業 1節 農林水産業 1 農業の発達と分布 2 農業の地域区分 3 現代世界の農業の現状と課題 4 日本の農業の現状と課題 5 世界と日本の林業 6 世界と日本の水産業 SDGs 番号 13: 気候変動に具体的な対策を 14: 海の豊かさを守ろう 15: 陸の豊かさを守ろう	世界の農林水産業について、自然条件や社会条件と関連づけて農業の地域区分をとらるとともに、現代世界の農林水産業の現状と課題を考察する。また、世界のなかでの日本の農林水産業の課題を考察する。 【評価の観点】 ①農林水産業に関わる諸事象の規則性、地域的特性などについて理解することができたか。 ②農林水産業に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べてまとめたことを地図化するなど地理的な表現を行うことができたか。まとめたことを多面的・多角的に考察することができたか。 ③農林水産業の変化について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしたか。
		2節 食料問題 1 世界の食料問題 2 日本の食料問題 SDGs 番号 1: 貧困をなくそう 2: 飢餓をゼロに	食料の分配は、世界全体をみると著しい偏りがある。飽食や飢餓がみられるのは、それぞれどのような地域だろうか。また、その原因は何だろうか。 【評価の観点】 ①食料の分配の世界的な偏りや、飽食や飢餓がみられる地域とその原因は何かについて理解することができたか。 ②食料の分配の世界的な偏りや、飽食や飢餓がみられる地域とその原因は何かについて、多面的・多角的に考察し、表現することができたか。 ③食料問題について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしたか。
	期末 考 査	3節 エネルギー・鉱産資源 1 エネルギー資源の種類と利用 2 化石燃料の分布と利用 3 電力の利用 4 鉱産資源の種類と利用	世界のエネルギー・鉱産資源の分布には、大きな偏りがある。エネルギー・鉱産資源は、どのようにして生活や産業に利用され、生産や消費の不均衡をなくすためにどのようなことが行われているのだろうか。 【評価の観点】 ①世界のエネルギー・鉱産資源の分布の偏りや、エネルギー・鉱産資源がどのようにして生活や産業に利用されているか、生産や消費の不均衡をなくすためにどのようなことが行われているかについて理解することができたか。 ②世界のエネルギー・鉱産資源の分布の偏りや、エネルギー・鉱産資源がどのようにして生活や産業に利用されているか、生産や消費の不均衡をなくすためにどのようなことが行われているかについて、多面的・多角的に考察し、表現することができたか。 ③エネルギー・鉱産資源について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしたか。
		4節 資源・エネルギー問題 1 資源・エネルギーをめぐる課題 2 日本の資源・エネルギー問題 SDGs 番号 7: エネルギーをみんなにそしてクリーンに	これまでの資源・エネルギー問題は、限りある資源をどのように利用するかという考え方であった。今後、資源・エネルギー問題を解決し、持続可能な社会を実現するためには、どのような考え方が必要なのだろうか。 【評価の観点】 ①これまでの資源・エネルギー問題の考え方に対し、今後、資源・エネルギー問題を解決し、持続可能な社会を実現するためには、どのような考え方が必要かについて理解することができたか。 ②これまでの資源・エネルギー問題の考え方に対し、今後、資源・エネルギー問題を解決し、持続可能な社会を実現するためには、どのような考え方が必要かについて、多面的・多角的に考察し、表現することができたか。 ③資源・エネルギー問題について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしたか。
	3 学 期	課題 調査	・2学期の復習
学年 末 考 査		5節 工業 1 工業の発達と種類 2 工業の立地 3 世界の工業地域 4 現代世界の工業の現状と課題 5 工業の知識産業化とスタートアップ企業 6 日本の工業 SDGs 番号 9: 産業と技術革新の基礎をつくろう 12: つくる責任つかう責任	工業は、さまざまな製品を生み出し、人々の生活や産業の発展を支えてきた。世界の工業はどのように発展し、現在はどのような工業分野や地域が中心となり、どのように変わろうとしているのだろうか。 【評価の観点】 ①さまざまな製品を生み出し、人々の生活や産業の発展を支えてきた工業はどのように発展し、現在はどのような工業分野や地域が中心となり、どのように変わろうとしているかについて理解することができたか。 ②さまざまな製品を生み出し、人々の生活や産業の発展を支えてきた工業はどのように発展し、現在はどのような工業分野や地域が中心となり、どのように変わろうとしているかについて、多面的・多角的に考察し、表現することができたか。 ③工業について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしたか。
		※	※学年末考査が終了した後の授業内容 ・1年間の復習

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）

【授業の受け方】

- ① アクティブラーニングを取り入れた授業であるため、グループで討議等を行います。
- ② 授業中は「なぜ？（Why 思考）」を大切にすること。
- ③ 社会参画していく上で、個々人で地理的諸課題の解決策を考えながら、これら問題を解決するために我々自身でできることなど自分ごととして考えていきましょう。

【評価について】

- ① 知識・技能：定期考査、授業中の取組状況等
- ② 思考・判断・表現：定期考査、授業中の取組状況等
- ③ 主体的に学習に取り組む態度：授業の予習、レポート、パフォーマンス課題

【ノート・プリントの書き方】

メモを残しておくことが大切です。授業後に調べたり、質問したりすることで、より確かな知識となります。メモを取りやすいように大きな付箋紙を準備して気になったことはその都度書いて貼り、整理しておきましょう。自分で考えたり、感じたり、疑問に思ったりしたことが大変重要です。

【勉強の進め方】

日々の授業の内容が基本です。必ず復習をして授業の内容を理解してください。

鹿児島県立徳之島高等学校シラバス	
日本史探究	[地理歴史]
履修学科	普通科
履修単位	2単位
履修学年	第2学年
教科書	『詳説 日本史』(山川出版社)
副教材	『新詳 日本史』(浜島書店) 『新日本史研究ノート(標準編)』(啓隆社)

科目目標
<p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>(3) 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

学期	月	単元名(考查範囲)	学習活動	評価の観点		
				①	②	③
1 学 期	4	第1部 原始・古代 第1章 日本文化のあけぼの 1 文化のはじまり 2 農耕社会の成立	自然環境や大陸からの文化の影響による生活の変化に着目して、旧石器文化・縄文文化・弥生文化を比較し、共通点と相違点を考察する。 ※ 身分差・貧富の差の発生 SDGs「10人や国の不平等をなくそう」に関連	○	○	○
		単元テスト①	既習事項の確認を一問一答形式やR80を用いて計る	○	○	○
	5	第2章 古墳とヤマト政権 1 古墳文化の展開 2 飛鳥の朝廷 第3章 律令国家の形成 1 律令国家への道 2 平城京の時代	東アジア諸国との協力・対立関係を整理し、これらの国々との交流が日本の国家形成や生活・文化に与えた影響を考察する。 唐の影響によって、律令体制が確立されたことを理解し、日本と唐の国家体制の共通点や相違点、現代の政治体制との共通点や相違点を考察する。また、藤原氏の台頭に伴う政争や天然痘の流行によって、社会不安が深まった時代であったことを理解し、国内・国際政治の不安定さやコロナ禍による社会不安が深まる現代との共通点を考察させる。	○	○	○
		単元テスト②	既習事項の確認を一問一答形式やR80を用いて計る	○	○	○

1 学 期	6	3 律令国家の文化 4 律令国家の変容	2で指摘したような社会不安から逃れたいという思いから、鎮護国家の思想が生まれ、仏教文化が発展したことや遷都事業をはじめとする桓武天皇の改革が、政治を刷新させたことを理解する。	○	○	○
	期末考査		教科書・授業プリント・ワークから出題	○	○	○
	7	1学期の復習				

学期	月	単元名（考査範囲）	学習活動	評価の観点			
				①	②	③	
2 学 期	9	第4章 貴族政治の展開 1 摂関政治 2 国風文化	藤原北家が政略結婚や他氏排斥によって不動の地位を手に入れたことや東アジア世界との関係の変化により、中国の文化を消化しながら純和風（日本風）の文化が形成されたことを理解する。	○	○	○	
	10	3 地方政治の展開と武士 第5章 院政と武士の躍進 1 院政の始まり 2 院政と平氏政権	地方政治の変化等により武士が台頭したり、摂関家を排除した天皇親政や院政が成立したりし、平安時代の政治が大きく転換したことを理解する。既習事項を基に、平氏政権の武家的性格と貴族的性格を考察する。	○	○	○	
	単元テスト①		既習事項の確認を一問一答形式やR80を用いて計る		○	○	○
	11	第6章 武家政権の成立 1 鎌倉幕府の成立 2 武士の社会 3 モンゴル襲来と幕府の衰退 4 鎌倉文化	武家政権の成立から戦国大名の時代に至る武家社会の発展と文化の展開について、東アジア世界の動向と関連付けて理解する。	○	○	○	
	期末考査		教科書・授業プリント・ワークから出題		○	○	○
	12	2学期の復習					

学期	月	単元名（考査範囲）	学習活動	評価の観点			
				①	②	③	
3 学 期	1	第7章 武家社会の成長 1 室町幕府の成立 2 幕府の衰退と庶民の台頭	応仁の乱の前後での国内政治の違いを考察する。また、東アジア諸地域との交流が深まったことを理解し、対明・対朝鮮・対琉球・対蝦夷地との交流の違いを整理する。	○	○	○	
	2	3 室町文化 4 戦国大名の登場	南北朝・北山・東山文化の共通点や相違点を考察するとともに、文化の担い手が貴族・武士だけではなく、庶民にまで広がったことを理解する。また、分国を経済的・政治的強国にするために、自分ならそのような施策を行うかを考察し実際に戦国大名が講じた施策と比較する。	○	○	○	
	期末考査		教科書・授業プリント・ワークから出題		○	○	○
	3	3学期の復習					

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。</p> <p>【評価の対象】 考査、確認テスト、レポート、授業中の取組状況等</p>	<p>我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。</p> <p>【評価の対象】 考査、確認テスト、レポート、プレゼンテーション、授業中の取組状況等</p>	<p>我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚もっている。</p> <p>【評価の対象】 確認テスト、レポート、プレゼンテーション</p>

授業を受けるときの約束事・学習の方法・成績について

<p>1 授業を受けるときの約束事</p> <p>(1) 授業開始のチャイム前に教材を机上に準備する。</p> <p>(2) 授業に必要な道具を忘れた場合は、授業前の休み時間までに直接申し出ること。</p> <p>(3) 居眠り絶対厳禁。</p> <p>(4) 板書以外も積極的にメモを取る（帰宅後復習時、テスト前に授業の復元ができるように）。</p> <p>(5) 歴史事項を覚えるだけでなく、「学んだことから、次の展開を予想する」「過去のことが現代にどのような影響を及ぼしているのか」を「考える」ことを大切にする。</p> <p>2 学習の方法</p> <p>(1) 毎時の確認テストで基本事項をしっかりインプットする。</p> <p>(2) (1)でインプットしたことを基に、「R80」などで歴史事象を表現（説明）できるようする。</p> <p>3 担当者から</p> <p>確認テストや考査で結果が出せることが全てではありません。日々の授業の態度や取組を評価していきます。世の中のことに興味をもって「考える」こと、考えたことを「表現する」ことを重視します。表現方法はさまざまです。人前で自分の考えを発表できるようになってほしいところですが、それが苦手であれば、感想やレポートというかたちからスタートしましょう。</p>

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
歴史総合	[地理歴史]

履修学科	総合学科
履修学年	第2学年
履修単位	2単位
教科書	高等学校 改訂版 新歴史総合 過去との対話、つなぐ未来 (第一学習社)
副教材	明解歴史総合図説 シンフォニア (帝国書院)

科目目標
<p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>(3) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>

学期	考査	単元名 (考査範囲)	学習活動	評価の観点		
				①	②	③
1 学 期	単元テスト	第1章 近代化と私たち 1 18世紀のアジアの繁栄	・交通と貿易、産業と人口、権利意識と政治参加や国民の義務、学校教育、労働と家族、移民などに関する資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身につける。	○	○	○
	期末考査	2 工業化の進展と国民国家の建設 3 結びつく世界と日本の開国 4 帝国主義とアジア諸国の変容	・18世紀のアジアや日本における生産と流通、アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易などを基に、18世紀のアジアの経済と社会を理解する。 ・18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向、日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定などを基に、立憲体制と国民国家の形成を理解する。	○	○	○
2 学 期	課題考査	第2章 国際秩序の変化や大衆化と私たち 1 第一次世界大戦と大衆社会	・国際関係の緊密化、アメリカ合衆国とソヴィエト連邦の台頭、植民地の独立、大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化、生活様式の変化などに関する資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身につける。	○	○	○

2 学 期	中間 考 査	<p>SDGs番号5・10：ジェンダー平等を実現しよう・人や国の不平等をなくそう</p> <p>ひとりの人間としての権利や自由を奪われた奴隷という存在は、様々な地域で見られる。19世紀から廃止の流れが広がったが差別という形で根強く残っている。このような事例をもとに現代においてどのような差別があり、私たちはどう行動していくべきかを考える。</p>				
		2 経済危機と第二次世界大戦	<ul style="list-style-type: none"> ・第二次世界大戦の展開、国際連合と国際経済体制、冷戦の始まりとアジア諸国の動向、戦後改革と日本国憲法の制定、平和条約と日本の独立の回復などを基に、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解する。 	○	○	○
3 学 期	期 末 考 査	<p>SDGs番号16：平和と公正をすべての人に</p> <p>何らかの事情（政変、戦争、飢餓、疫病など）で生まれ育った国を離れて生活する移民について理解させる。ユダヤ人、南部イタリアの人々、日系移民、中国系移民の歴史から移民が移住先に求めたことを考察させる。また、今後増えていくであろう外国の人々といかに共生していくか考えさせる。</p>				
		3 第二次世界大戦後の世界と日本	<ul style="list-style-type: none"> ・第二次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。 	○	○	○
3 学 期	学 年 末 考 査	第3章 グローバル化と私たち	<ul style="list-style-type: none"> ・脱植民地化とアジア・アフリカ諸国、冷戦下の地域紛争、先進国の政治の動向、軍備拡張や核兵器の管理などを基に国際政治の変容を理解する。 ・西ヨーロッパや東南アジアの地域連携、計画経済とその波及、日本の高度経済成長などを基に、世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会を理解する。 ・持続可能な社会の実現を視野に入れ、自ら主題を設定し、歴史的経緯を踏まえて、現代的な諸課題を理解する。 ・世界遺産に登録されている鹿児島県内の歴史的建造物や自然について、その世界遺産が持つ意義を調べ、歴史総合で学んだ内容との関連を意識して発表（プレゼンテーション）を行う。 			
		1 冷戦と植民地化・第三世界の台頭		○	○	○
		2 世界秩序の変容と日本		○	○	○

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている。</p> <p>【評価の対象】 単元テスト、考査、発表、授業中の取組状況等</p>	<p>近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身につけている。</p> <p>【評価の対象】 単元テスト、考査、発表、授業中の取組状況等</p>	<p>近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度や、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを身につけている。</p> <p>【評価の対象】 単元テスト、考査、発表</p>
担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）		
<ol style="list-style-type: none"> 1 授業には集中して臨みましょう。授業者の発言もノートにメモを取りましょう。 2 主体的に学習に取り組む態度は様々な方法で評価されます。発表や課題の提出などに主体的に取り組みましょう。 3 授業中は「なぜ？」を大切にすること。 		

鹿児島県立徳之島高等学校シラバス	
世界史探究	[地理歴史]

履修学科	普通科
履修学年	第3学年
履修単位	3単位
教科書	『詳説 世界史』(山川出版社)
副教材	『詳説世界史ノート』(山川出版社) 『詳説世界史図録』(山川出版社) 『世界史用語集』(山川出版社) 『詳説世界史10分間テスト』(山川出版社)

科目目標	
<p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p>	
<p>(1) 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p>	
<p>(2) 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p>	
<p>(3) 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>	

学期	考査	単元名 (考査範囲)	学習活動	評価の観点		
				①	②	③
1 学 期	単元テスト	第Ⅱ部 諸地域の交流・再編 第8章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国 1 アジア諸地域の自立化と宋 2 モンゴルの大帝国	<ul style="list-style-type: none"> 10世紀前半に東アジアで政権の交替があいついだ背景や、そこで成立した諸国の共通点を理解する。 モンゴル帝国による支配が東アジアにおよぼした影響について理解する。 	○	○	○
	期末考査	第9章 大交易・大交流の時代 1 アジア交易世界の興隆 2 ヨーロッパの海洋進出とアメリカ大陸の変容	<ul style="list-style-type: none"> ヨーロッパの人々が遠洋に乗り出していった動機や背景を多面的・多角的に考察し表現する。 	○	○	○
	期末考査	第10章 アジアの諸帝国の繁栄 1 オスマン帝国 2 ムガル帝国の興隆 3 清代の中国と隣接諸地域	<ul style="list-style-type: none"> オスマン帝国の基礎が築かれた経緯を理解する。 清朝の領土に組み込まれた民族と、彼らがどのように統治されていたかを理解する。 	○	○	○
	期末考査	第11章 近世ヨーロッパ世界の動向 1 ルネサンス 2 宗教改革 3 主権国家体制の成立 4 オランダ・イギリス・フランスの台頭 5 北欧・東欧の動向 6 科学革命と啓蒙思想	<ul style="list-style-type: none"> ルネサンスを支えた精神の特徴を理解し、それが後世に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 カトリック改革が持つ世界史的な意義を多面的・多角的に考察し表現する。 主権国家体制の成立の経緯を多面的・多角的に考察し表現する。 17世紀における特にオランダの経済的な覇権獲得および衰退の要因を多面的・多角的に考察し表現する。 科学革命がヨーロッパ人に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 	○	○	○

学期	考査	単元名（考査範囲）	学習活動	評価の観点		
				①	②	③
2 学 期	中間考査	第Ⅲ部 諸地域の結合・変容 第12章 産業革命と環大西洋革命 1 産業革命 2 アメリカ合衆国の独立と発展 3 フランス革命とナポレオンの支配 4 中南米諸国の独立	<ul style="list-style-type: none"> イギリス産業革命が世界経済に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 アメリカ合衆国の独立がヨーロッパ諸国に与えた影響を考察し表現する。 ナポレオンの支配に対する人々の反応を多面的・多角的に考察し表現する。 	○	○	○
		SDGs 番号 8 働きがいも経済成長も 産業革命を通じて資本家と労働者という関係が誕生したことを踏まえ、現在に至るまでの労働問題の原点について考え、個人の幸福と経済成長の実現のためにどのような社会が望まれるか考察する。				
		第13章 イギリスの優位と欧米国民国家の形成 1 ウィーン体制とヨーロッパの政治・社会の変動 2 列強体制の動揺とヨーロッパの再編成 3 アメリカ合衆国の発展 4 19世紀欧米文化の展開と市民文化の繁栄	<ul style="list-style-type: none"> ウィーン会議が目指した国際秩序を理解し、1848年革命の展開と影響についてヨーロッパの地域差に着目しながら多面的・多角的に考察し表現する。 アメリカが州国の領土拡大と南北戦争の流れについて移民が持つ意味を踏まえながら考察し表現する。 	○	○	○
	期末考査	第14章 アジア諸地域の動揺 1 西アジア地域の変容 2 南アジア・東南アジアの植民地化 3 東アジアの激動	<ul style="list-style-type: none"> オスマン帝国や清朝の危機の要因をイギリスやフランス、ロシアとの関係の中で理解し、このようななかで日本がどのように台頭していったかを多面的・多角的に考察し表現する。 	○	○	○
		第15章 帝国主義とアジアの民族運動 1 第2次産業革命と帝国主義 2 列強の世界分割と列強体制の二分化	<ul style="list-style-type: none"> 列強の植民地化によるアフリカの社会や文化の変容を理解し、各列強が抱えていた国内事情と課題を比較して考察・表現する。 	○	○	○
		第16章 第一次世界大戦と世界の変容 1 第一次世界大戦とロシア革命 2 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 3 アジア・アフリカ地域の民族運動	<ul style="list-style-type: none"> 歴史上はじめてとなる世界大戦の原因、経過、結果について理解し、西欧諸国を中心としたどのような国際秩序が作られていったかを多面的・多角的に考察し表現する。 	○	○	○
		第17章 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成 1 世界恐慌とヴェルサイユ体制 2 第二次世界大戦 3 新しい国際秩序の形成	<ul style="list-style-type: none"> 世界恐慌が起こった背景や影響を踏まえて、ヨーロッパ各国がどのような対策を取ったかを比較・考察し、表現する。 第二次世界大戦の開戦から終戦までの経緯を理解する。 	○	○	○
SDGs 番号 17 パートナーシップで目標を達成しよう 国際連合の成立をはじめとする戦後形成された国際秩序について、現在の状況を踏まえて考察し、今後の国際社会のあるべき姿について考察する。						

学期	考查	単元名（考查範囲）	学習活動	評価の観点		
				①	②	③
3 学 期	学 年 末 考 査	第IV部 地球世界の課題 第18章 冷戦と第三世界の台頭 1 冷戦の展開 2 第三世界の台頭とキューバ危機 3 冷戦体制の動揺	<ul style="list-style-type: none"> 冷戦の進展がアメリカ社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 スターリン死後のソ連と東欧における変化を多面的・多角的に考察し表現する。 経済成長にともなう先進諸国の政策・社会の変化を多面的・多角的に考察し表現する。 	○	○	○
		第19章 冷戦の終結と今日の世界 1 産業構造の変容 2 冷戦の終結 3 今日の世界 4 現代文明の諸相	<ul style="list-style-type: none"> 冷戦終結後の諸国の変化を政治的、経済的な変化を中心に理解する。 経済における成果の一体化の経緯を理解する。 今日の国際関係の特徴と必要とされている協力の内容を多面的・多角的に考察し表現する。 	○	○	○
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> <p>SDGs番号16 平和と公正をすべての人に 先進国と途上国の間の経済格差や国際紛争について考察を深め、フェアトレード品の購入など、よりよい社会実現のために自分にできることを考える。</p> </div>						

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能が身に付いているか。</p> <p>【評価の対象】 単元テスト、考查、発表、授業中の取組状況等</p>	<p>世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力が身に付いているか。</p> <p>【評価の対象】 単元テスト、考查、発表、授業中の取組状況等</p>	<p>世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚が深まっているか。</p> <p>【評価の対象】 単元テスト、考查、発表</p>
担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）		
<p>1 詳説世界史ノートを利用した予習を土台にして、授業の中では思考力や判断力、表現力を養う活動を中心に行っていきます。授業時に配布される授業計画表に基づいて、主体的かつ計画的に学習に臨むようにしましょう。</p> <p>2 主体的に学習に取り組む態度は様々な方法で評価されます。発表や課題の提出などに主体的に取り組みましょう。</p> <p>3 授業中は「なぜ？」を大切にすること。</p> <p>4 学習に取り組む中で疑問が生じた場合は、授業時や放課後を活用して積極的に質問をしましょう。</p>		

鹿児島県立德之島高等学校シラバス	
日本史探究	[地理歴史]
履修学科	普通科
履修学年	第3学年
履修単位	3単位
教科書	『詳説 日本史』(山川出版社)
副教材	『新詳 日本史』(浜島書店) 『新日本史研究ノート(標準編)』(啓隆社) 『2027 共通テスト対策【実力完成】直前演習 歴史総合・日本史探究』(ラーンズ)

科目目標
<p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>(3) 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>

学期	月	単元名(考查範囲)	学習活動	評価の観点		
				①	②	③
1 学 期	4	第Ⅲ部 近世 第8章 近世の幕開け 1 織豊政権 2 桃山文化	戦国時代から織豊政権、徳川幕府への移行を理解させる。	○	○	○
		単元テスト①	既習事項の確認を一問一答形式やR80を用いて計る	○	○	○
	5	第9章 幕藩体制の成立と展開 1 幕藩体制の成立 2 幕藩社会の構造 3 幕政の安定 4 経済の発展 5 元禄文化	江戸幕府の成立から安定期について、その平和と秩序の確立の視点で考察させ、併せて農業・商工業などの発展について理解させる。また、町人文化の形成について、町人の社会的台頭や幕藩体制の安定との関連の中で理解させる。	○	○	○
		単元テスト②	既習事項の確認を一問一答形式やR80を用いて計る	○	○	○
	6	第10章 幕藩体制の動揺 1 幕政の改革 2 宝暦・天明期の文化 3 幕府の衰退と近代への道 4 化政文化	幕藩体制が動揺する中、幕府や諸藩が対処した諸改革についての特徴を理解し、欧米諸国のアジア進出による国際情勢の変化や幕府が衰退していく過程を理解させる。化政文化について、学問・思想・美術・生活文化の新たな展開に着目させ、江戸はもとより地方文化の成長にも留意して考察させる。	○	○	○
		期末考査	教科書・授業プリント・ワークから出題	○	○	○
	7 8	第Ⅳ部 近代・現代 第11章 近世から近代へ 1 開国と幕末の動乱	幕末・維新期の過程を国際環境の変化に着目して理解させ、幕府の滅亡に至るまでの経過を社会・経済の変化と関連付けて理解させる。	○	○	○

学期	月	単元名（考査範囲）	学習活動	評価の観点			
				①	②	③	
2 学 期	9	2 幕府の滅亡と新政府の発足 第12章 近代国家の成立 1 明治維新と富国強兵 2 立憲国家の成立 第13章 近代国家の展開 1 日清・日露戦争と国際関係 ※戦争の正負両面を捉える活動 SDGs「10人や国の不平等をなくそう」、「16平和と公正をすべての人に」に関連	日清・日露戦争の勝利により、日本は列強の仲間入りを果たした一方で、戦争により国民は多大な犠牲を強いられたことや、韓国併合や満州への勢力の拡張などを通じて植民地支配を進めていくなかで、列強から警戒される存在になったという、1つの出来事の正負両面を複数の資料から考察させる。	○	○	○	
	10	2 第一次世界大戦と日本 3 ワシントン体制 第14章 近代の産業と生活 1 近代産業の発展 2 近代文化の発展 3 市民生活の変容と大衆文化 第15章 恐慌と第二次世界大戦 1 恐慌の時代 2 軍部の台頭 3 第二次世界大戦	第一次世界大戦前後の政治の動向及び対外政策の推移について、政党政治の発展や日本の中国進出の状況を踏まえて考察させる。 第二次世界大戦について、国家間の相違や総力戦の特色を踏まえ、この戦争が空前的惨禍をもたらした点に着目して、平和で民主的な国際社会の実現に努める重要性を認識させる。	○	○	○	
	単元テスト①		既習事項の確認を一問一答形式やR80を用いて計る		○	○	○
	11	第16章 占領下の日本 1 占領と改革 2 冷戦の開始と講和	戦後の世界秩序を踏まえ、占領政策及び戦後の民主化政策とそれに伴う諸改革について、その経過と内容を理解させる。	○	○	○	
	期末考査		教科書・授業プリント・ワークから出題		○	○	○
	12	第17章 高度成長の時代 1 55年体制 2 経済復興から高度成長へ 第18章 激動する世界と日本 1 経済大国への道 2 冷戦の終結と日本社会の変容	独立後の日本国内政治について、55年体制の成立から日本の国際社会への復帰、さらには朝鮮特需による経済復興とその後の高度経済成長について考察させる。 石油危機を乗り越え、経済大国としての道を歩み始めた日本の状況と、冷戦後の日本の政治・外交・経済・生活文化面について理解させ、現在の日本が抱える環境問題やエネルギー問題などの課題とそれに対する日本の役割について考察させる。	○	○	○	
3 学 期	1	復習及び演習		○	○	○	
	学年末（卒業）考査		教科書・授業プリント・ワークから出題		○	○	○

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。</p> <p>【評価の対象】 考査、確認テスト、レポート、授業中の取組状況等</p>	<p>我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。</p> <p>【評価の対象】 考査、確認テスト、レポート、プレゼンテーション、授業中の取組状況等</p>	<p>我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚もっている。</p> <p>【評価の対象】 確認テスト、レポート、プレゼンテーション</p>

授業を受けるときの約束事・学習の方法・成績について

<p>1 授業を受けるときの約束事</p> <p>(1) 授業開始のチャイム前に教材を机の上に準備する。</p> <p>(2) 授業に必要な道具を忘れた場合は、授業前の休み時間までに直接申し出ること。</p> <p>(3) 居眠り絶対厳禁。</p> <p>(4) 板書以外も積極的にメモを取る（帰宅後復習時、テスト前に授業の復元ができるように）。</p> <p>(5) 歴史事項を覚えるだけでなく、「学んだことから、次の展開を予想する」「過去のことが現代にどのような影響を及ぼしているのか」を「考える」ことを大切にする。</p> <p>2 学習の方法</p> <p>(1) 毎時の確認テストで基本事項をしっかりインプットする。</p> <p>(2) (1)でインプットしたことを基に、「R80」などで歴史事象を表現（説明）できるようする。</p> <p>3 担当者から</p> <p>確認テストや考査で結果が出せることが全てではありません。日々の授業の態度や取組を評価していきます。世の中のことに興味をもって「考える」こと、考えたことを「表現する」ことを重視します。表現方法はさまざまです。人前で自分の考えを発表できるようになってほしいところですが、それが苦手であれば、感想やレポートというかたちからスタートしましょう。</p>
--

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
地理探究	[地理歴史]

科目目標
<p>社会的現象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的、地誌的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>(3) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。</p>

履修学科	普通科
履修学年	第3学年
履修単位	3単位
教科書	「新詳地理探究」(帝国書院) 「新詳高等地図」(帝国書院)
副教材	新詳地理資料 COMPLETE 2024 (帝国書院) 新地理要点ノート(啓隆社) 新地理の研究(啓隆社)

【評価の観点】 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

学期	考查	単元名(考查範囲)	学習内容
1 学 期	単 元 テ ス ト	第1部 現代世界の系統地理的考察 第2章 資源と産業 6節 第3次産業 1 経済発展と第3次産業 2 商業の現状と変化 3 商業以外のさまざまな第3次産業 SDGs 番号 8：働きがいも経済成長も	経済が発展すると、物やサービスへの需要が高まるため、第3次産業が主力の産業となる。第3次産業の現状はどのようになっているのだろうか。 【評価の観点】 ①経済が発展し、物やサービスへの需要が高まったため、主力の産業となった第3次産業の現状はどのようになっているかについて理解している。 ②経済が発展し、物やサービスへの需要が高まったため、主力の産業となった第3次産業の現状はどのようになっているかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③第3次産業について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
		第3章 交通・通信と観光、貿易 1節 交通・通信 1 世界を結ぶ交通 2 日本の交通の特徴 3 情報通信の発達	交通と通信の発達によって、社会や経済は大きく変化した。なぜ、交通網や通信網の発達には、傾向や地域性、地域間格差が現れているのだろうか。 【評価の観点】 ①社会や経済を大きく変化した交通網や通信網の発達には、なぜ傾向や地域性、地域間格差が現れているかについて理解している。 ②社会や経済を大きく変化した交通網や通信網の発達には、なぜ傾向や地域性、地域間格差が現れているかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③交通・通信について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
		2節 観光 1 余暇の拡大と観光産業 2 日本の観光とその変化 SDGs 番号 11：住み続けられるまちづくりを 12：つくる責任つかう責任	交通と通信の発達などをきっかけとして、日本では、訪日外国人数を増やして観光産業などを盛んにしようとする取り組みがみられる。観光にはどのような特徴や利点があり、どのような課題があるのだろうか。 【評価の観点】 ①日本での訪日外国人数を増やして観光産業などを盛んにしようとする取り組みや、観光の特徴や利点、課題について理解している。 ②日本での訪日外国人数を増やして観光産業などを盛んにしようとする取り組みや、観光の特徴や利点、課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③観光について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
		3節 貿易と経済圏 1 世界の貿易と地域間格差 2 貿易の自由化と経済連携 3 日本の貿易 SDGs 番号 8：働きがいも経済成長も 9：産業と技術革新の基盤をつくろう 15：陸の豊かさを守ろう	私たちの日常生活は、貿易なしには成り立たない。世界の貿易は拡大を続けているが、地域性や地域間格差が現れてきている。それはなぜなのだろうか。 【評価の観点】 ①拡大を続けている世界の貿易では、地域性や地域間格差が現れてきているのはなぜかについて理解している。 ②拡大を続けている世界の貿易では、地域性や地域間格差が現れてきているのはなぜかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③貿易と経済圏について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
		第4章 人口、村落・都市 1節 人口	世界全体の人口は現在も増加し続けているが、国や地域によってはさまざまな理由で減少に転じている場合もある。世界各地の人口の分布や年齢別構成、移動には、どのような特徴がみられるのだろうか。

1 学 期	期 末 考 査	1 世界の人口 2 人口の移動	【評価の観点】 ①増加する世界人口と世界各地の人口の増減や分布、年齢別構成、移動には、どのような特徴がみられるかについて理解している。 ②増加する世界人口と世界各地の人口の増減や分布、年齢別構成、移動には、どのような特徴がみられるかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③人口について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
		2節 人口問題 1 世界の人口問題 2 日本の人口問題	社会情勢や文化などのさまざまな要因によって、世界各国・各地域の人口は、規模や分布が異なっている。先進国と発展途上国では、出生率の高低や高齢化の進行に、どのような違いが表れているのだろうか。
		SDGs 番号 1：貧困をなくそう 2：飢餓をなくそう 3：すべての人に健康と福祉を 5：ジェンダー平等を実現しよう 17：パートナーシップで目標を達成しよう	【評価の観点】 ①社会情勢や文化などのさまざまな要因によって異なる世界各国・各地域の人口規模・分布や、先進国と発展途上国の出生率の高低や高齢化の進行の違いについて理解している。 ②社会情勢や文化などのさまざまな要因によって異なる世界各国・各地域の人口規模・分布や、先進国と発展途上国の出生率の高低や高齢化の進行の違いについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③人口問題について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
		3節 村落と都市 1 集落の成り立ち 2 村落の形態と機能 3 都市の成立と形態・機能 4 都市圏の拡大と都市の構造	人々はどのような場所に居住し、村落や都市を発達させてきたのだろうか。その立地や形態、変容のしかたにみられる傾向や規則性、また、国や地域によって異なる地域性についてとらえよう。
2 学 期	中 間 考 査	4節 都市・居住問題 1 発展途上国の都市・居住問題 2 先進国の都市・居住問題 3 日本の都市・居住問題	世界の都市が持続的に発展していくためには、どのような課題があるのだろうか。また、日本の都市にはどのような課題があり、それらを解決するために、どのような取り組みが行われているのだろうか。
		SDGs 番号 11：住み続けられるまちづくりを	【評価の観点】 ①世界の都市が持続的に発展していくための課題、日本の都市の課題と解決するための取り組みについて理解している。 ②世界の都市が持続的に発展していくための課題、日本の都市の課題と解決するための取り組みについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③都市・居住問題について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
		・1学期の復習	
		第5章 生活文化、民族・宗教 1節 衣食住 1 世界の衣服と食生活 2 世界の住居と衣食住の画一化	伝統的な衣食住の生活文化は、その土地の自然環境や社会環境などの地域的特色を反映して形成されてきた。これらの生活文化にはどのような傾向があり、世界的な画一化の動きとどのように関わっているのだろうか。
2 学 期	中 間 考 査	SDGs 番号 8：働きがいも経済成長も 12：つくる責任つかう責任	【評価の観点】 ①自然環境や社会環境などを反映して形成されてきた伝統的な衣食住の生活文化にはどのような傾向があり、世界的な画一化の動きとどのように関わっているかについて理解している。 ②自然環境や社会環境などを反映して形成されてきた伝統的な衣食住の生活文化にはどのような傾向があり、世界的な画一化の動きとどのように関わっているかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③衣食住について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
		2節 民族・宗教と民族問題 1 世界の民族・言語 2 世界の宗教 3 さまざまな民族問題 4 多文化の共生に向けた取り組み	世界には、さまざまな民族が存在し、それぞれの言語を話し、多様な宗教を信仰している。民族や宗教の独自性はどのようにとらえることができ、各地にみられる民族問題の背景とどのように関わっているのだろうか。
		SDGs 番号 16：平和と公正をすべての人に 17：パートナーシップで目標を達成しよう	【評価の観点】 ①世界のさまざまな民族の言語や宗教の独自性、各地にみられる民族問題の背景とのかかわりについて理解している。 ②世界のさまざまな民族の言語や宗教の独自性、各地にみられる民族問題の背景とのかかわりについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③民族・宗教と民族問題について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
2 学 期	中 間 考 査	第2部 現代世界の地誌的考察 序節 地域の考察方法 1 地誌的な考察方法 1節 中国 -項目ごとに整理して考察	第二次世界大戦後の中国は、経済発展が著しく、世界経済への影響も大きくなってきている。この節では、地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理し、急速な経済発展に伴う地球的課題について考察しよう。
		1 中国の政治体制と多様な民族 2 中国の食生活と農業・水産業 3 中国の工業化と海外進出 4 経済発展に伴うさまざまな課題	【評価の観点】 ①工業化や経済発展が著しく、世界経済に大きな影響を与えている中国について、民族や産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して理解している。 ②工業化や経済発展が著しく、世界経済に大きな影響を与えている中国について、民族や産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③中国について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。

<p>2節 韓国 -項目ごとに整理して考察</p> <p>1 韓国の歴史と生活文化</p> <p>2 産業の発展と生活の変化</p>	<p>日本と地理的な距離が近い韓国は、急速な経済成長を遂げている。この節では、自然環境や歴史と生活文化、産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して考察しよう。</p> <p>【評価の観点】</p> <p>①日本と地理的な距離が近く、急速な経済成長を遂げている韓国について、自然環境や歴史と生活文化、産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して理解している。</p> <p>②日本と地理的な距離が近く、急速な経済成長を遂げている韓国について、自然環境や歴史と生活文化、産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して、多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③韓国について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。</p>
<p>3節 ASEAN諸国 -項目ごとに整理して考察</p> <p>1 ASEAN諸国の歴史と文化・民族</p> <p>2 ASEAN諸国の農業とその変化</p> <p>3 ASEAN諸国の工業とその発展</p> <p>4 ASEANの変化と課題</p>	<p>古くから農業が盛んな ASEAN 諸国は、近年急速に工業化が進んでいる。この節では、文化・民族や産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して考察しよう。</p> <p>【評価の観点】</p> <p>①古くから農業が盛んで、近年急速に工業化が進んでいる ASEAN 諸国について、文化・民族や産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して理解している。</p> <p>②古くから農業が盛んで、近年急速に工業化が進んでいる ASEAN 諸国について、文化・民族や産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して、多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③ASEAN 諸国について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。</p>
<p>4節 インド -経済成長に関連づけて考察</p> <p>1 急速な経済成長を支えた産業の発展</p> <p>2 増加する人口と農村の変化</p> <p>3 インド社会の変化と経済格差の拡大</p>	<p>インドは、近年、急速に経済が成長している国の一つである。この節では、インドの産業の発展や農村・社会の変化、国内の経済格差をはじめとする課題を、経済成長に関連づけて考察しよう。</p> <p>【評価の観点】</p> <p>①近年急速に経済が成長しているインドについて、産業の発展や農村・社会の変化、国内の経済格差をはじめとする課題を、経済成長に関連づけて理解している。</p> <p>②近年急速に経済が成長しているインドについて、産業の発展や農村・社会の変化、国内の経済格差をはじめとする課題を、経済成長に関連づけて、多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③インドについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。</p>
<p>5節 西アジアと中央アジア -地域を比較して考察</p> <p>1 イスラームと人々の生活文化</p> <p>2 交易の歴史と乾燥地域の農業</p> <p>3 豊富な資源を生かして進められる開発</p>	<p>西アジアと中央アジアには、自然環境や生活文化で共通点が多くみられるが、異なる歴史的経緯や地域ごとの特殊性もある。この節では、二つの地域を比較し、一般性や地域の特殊性を考察しよう。</p> <p>【評価の観点】</p> <p>①自然環境や生活文化で共通点が多くみられるが、異なる歴史的経緯や地域ごとの特殊性もある西アジアと中央アジアについて、二つの地域を比較し、一般性や地域の特殊性を理解している。</p> <p>②自然環境や生活文化で共通点が多くみられるが、異なる歴史的経緯や地域ごとの特殊性もある西アジアと中央アジアについて、二つの地域を比較し、一般性や地域の特殊性を多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③西アジアと中央アジアについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。</p>
<p>6節 北アフリカとサハラ以南アフリカ -地域を比較して考察</p> <p>1 歴史的な背景によって形成された多様な文化</p> <p>2 他地域との結びつきと人々の生活の変化</p> <p>3 一次産品への依存とそれがもたらす課題</p>	<p>北アフリカとサハラ以南アフリカは、アフリカとしてのまとまりをもっている一方で、大きく異なる点も多々ある。この節では、二つの地域を比較するとともに、一次産品への依存がもたらす地球的課題を考察しよう。</p> <p>【評価の観点】</p> <p>①アフリカとしてのまとまりをもっている一方で、大きく異なる点も多々ある北アフリカとサハラ以南アフリカについて、二つの地域を比較し、類似する一般性や地域の特殊性を理解している。</p> <p>②アフリカとしてのまとまりをもっている一方で、大きく異なる点も多々ある北アフリカとサハラ以南アフリカについて、二つの地域を比較し、類似する一般性や地域の特殊性を、多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③北アフリカとサハラ以南アフリカについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。</p>
<p>7節 EU諸国 -項目ごとに整理して考察</p> <p>1 EUの成り立ちと結びつき</p> <p>2 ヨーロッパの多様な農業と政策</p> <p>3 移り変わるEUの工業</p> <p>4 EU拡大による影響と課題</p>	<p>ヨーロッパは、二度の世界大戦を機に EU を中心とした政治・経済の統合を進めている。この節では、民族や産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して考察しよう。</p> <p>【評価の観点】</p> <p>①二度の世界大戦を機に EU を中心とした政治・経済の統合を進めているヨーロッパについて、民族や産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して理解している。</p> <p>②二度の世界大戦を機に EU を中心とした政治・経済の統合を進めているヨーロッパについて、民族や産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して、多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③EU 諸国について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。</p>
<p>8節 ロシア -国家体制の変化に関連づけて考察</p> <p>1 ロシアの成り立ちと体制変化</p> <p>2 体制変化が産業にもたらした影響と課題</p>	<p>ロシアは、かつて社会主義国だったが、1990 年代に国家体制が変化し、現在は新しい国づくりを進めている。この節では、ロシアの国家体制の変化に着目して工業や農業の特徴をとらえ、資源・エネルギーをめぐる地球的課題を考察しよう。</p> <p>【評価の観点】</p> <p>①かつて社会主義国だったが、1990 年代に国家体制が変化し、現在は新しい国づくりを進めているロシアについて、農業や工業を国家体制の変化に関連づけて理解している。</p> <p>②かつて社会主義国だったが、1990 年代に国家体制が変化し、現在は新しい国づくりを進めているロシアについて、農業や工業を国家体制の変化に関連づけて、多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③ロシアについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。</p>

2 学 期		9節 アメリカ合衆国 -項目ごとに整理して考察 1 移民国家としてのアメリカ合衆国の発展 2 世界の食料生産の鍵を握るアメリカ合衆国 3 進展する科学技術と産業 4 多民族社会と移民増加に伴う課題	アメリカ合衆国は移民国家としての多様性を持ち、それがこの国の原動力にもなってきた。この節では、地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理しつつ、多民族社会や移民に関する地球的課題を考察しよう。 【評価の観点】 ①移民国家としての多様性を持ち、世界有数の農業国であり、先端技術産業でも世界をリードしているアメリカ合衆国について、地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して理解している。 ②移民国家としての多様性を持ち、世界有数の農業国であり、先端技術産業でも世界をリードしているアメリカ合衆国について、地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③アメリカ合衆国について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
		10節 ラテンアメリカ -歴史的背景と関連づけて考察 1 ヨーロッパの影響が強い社会 2 大土地所有制と農業の変化 3 工業化の進展と経済発展	ラテンアメリカは、かつてヨーロッパ諸国の植民地であった歴史的背景があり、それが人々の生活や現在の産業にも深く関わっている。この節では、文化や農業・工業をヨーロッパの影響と関連づけて考察しよう。 【評価の観点】 ①かつてヨーロッパ諸国の植民地であった歴史的背景があり、それが人々の生活や現在の産業にも深く関わっているラテンアメリカについて、文化や農業・工業をヨーロッパの影響と関連づけて理解している。 ②かつてヨーロッパ諸国の植民地であった歴史的背景があり、それが人々の生活や現在の産業にも深く関わっているラテンアメリカについて、文化や農業・工業をヨーロッパの影響と関連づけて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ラテンアメリカについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
		11節 オーストラリアとニュージーランド -国を比較して考察 1 移民の歴史と多文化社会 2 自然の恵みを生かして発達した産業	オーストラリアとニュージーランドには、南半球にある地理的位置や移民の国という共通点があるが、自然環境や産業で違いもみられる。この節では二つの国を比較し、類似する一般性や地域の特殊性を考察しよう。 【評価の観点】 ①南半球にある地理的位置や移民の国という共通点があるが、自然環境や産業で違いもみられるオーストラリアとニュージーランドについて、二つの国を比較し、類似する一般性や地域の特殊性を理解している。 ②南半球にある地理的位置や移民の国という共通点があるが、自然環境や産業で違いもみられるオーストラリアとニュージーランドについて、二つの国を比較し、類似する一般性や地域の特殊性を、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③オーストラリアとニュージーランドについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
3 学 期	卒業 考 査	第3部 現代世界におけるこれからの日本の国土像 第1章 持続可能な国土像の探究 SDGs 番号 11：住み続けられるまちづくりを 17：パートナーシップで目標を達成しよう	【目標】 ①現代世界におけるこれからの日本の国土像の探究をもとに、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを構想することの重要性や、探究する手法などについて理解すること。 ②現代世界におけるこれからの日本の国土像について、地域の結びつき、構造や変容、持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを多面的・多角的に探究し、表現すること。 ③持続可能な国土像の探究について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に探究しようとする事。 【評価の観点】 ①現代世界におけるこれからの日本の国土像の探究をもとに、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを構想することの重要性や、探究する手法などについて理解している。 ②現代世界におけるこれからの日本の国土像について、地域の結びつき、構造や変容、持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを多面的・多角的に探究し、表現している。 ③持続可能な国土像の探究について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に探究しようとしている。

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）	
【授業の受け方】	① アクティブラーニングを取り入れた授業であるため、グループで討議等を行います。 ② 授業中は「なぜ？（Why 思考）」を大切にすること。 ③ 社会参画していく上で、個人で地理的諸課題の解決策を考えながら、これら問題を解決するために我々自身でできることなど自分ごととして考えていきましょう。
【評価について】	① 知識・技能：定期考査、授業中の取組状況等 ② 思考・判断・表現：定期考査、授業中の取組状況等 ③ 主体的に学習に取り組む態度：授業の予習、レポート、パフォーマンス課題
【ノート・プリントの書き方】	メモを残しておくことが大切です。授業後に調べたり、質問したりすることで、より確かな知識となります。メモを取りやすいように大きな付箋紙を準備して気になったことはその都度書いて貼り、整理しておきましょう。自分で考えたり、感じたり、疑問に思ったりしたことが大変重要です。
【勉強の進め方】	日々の授業の内容が基本です。必ず復習をして授業の内容を理解してください。

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
政治・経済	[公民]

科目目標
<p>社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。</p> <p>(3) よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。</p>

履修学科	普通科
履修学年	第3学年
履修単位	3単位
教科書	『高等学校 政治・経済』(第一学習社)
副教材	『政治・経済ノート』(第一学習社)

【評価の観点】

1 学 期	考 査	単元名(考查範囲) 学習項目	学習内容
1 学 期	単 元 テ ス ト	第1編 現代日本の政治・経済の諸課題 第1章 現代日本の政治・経済 第1節 日本国憲法と現代政治のあり方 ①政治と法の意義と機能	<p>民主政治の本質を把握しながら、政治と私たちとの関わりについて理解する。</p> <p>【評価の観点】</p> <p>① 政治や政治権力の意味とその役割について、理解している</p> <p>② 法の意義と機能について多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③ 「日本国憲法と現代政治のあり方」について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。</p>
		②法の支配と立憲主義	<p>法に関する基本的な見方や考え方を把握しながら、法の意義について理解する。</p> <p>【評価の観点】</p> <p>① 法の支配や立憲主義の意味と意義について、理解している。</p> <p>② 国家の統治原理として、法の支配や立憲主義を確立することの大切さについて、多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③ 「日本国憲法と現代政治のあり方」について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。</p>
		③基本的人権の保障と日本国憲法	<p>日本国憲法の成立過程を把握しながら、日本国憲法の三大原理について理解する。基本的人権が確立するまでの歩みを理解しながら、人権保障の広がりについて考察する。個人の尊厳、自由、平等などの社会的価値について把握しながら、権利相互の関係や人権をめぐる諸課題について理解する。自由権や社会権、参政権などの基本的人権について理解を深め、その本質を把握する。</p> <p>【評価の観点】</p> <p>① 基本的人権が確立した背景や経緯について、理解している。</p> <p>② 個人の尊重や憲法によって保障されている自由や平等について、多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③ 「日本国憲法と現代政治のあり方」について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。</p>
		④現代社会における新しい人権	<p>新しい人権について理解を深め、その本質を把握する。</p> <p>【評価の観点】</p> <p>① 新しい人権が主張されるようになった背景や、新しい人権の具体的内容について、理解している。</p> <p>② 個人の尊重や憲法によって保障されている自由や平等について、多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③ 「日本国憲法と現代政治のあり方」について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。</p>

SDGs 番号
1 : 貧困をなくそう
5 : ジェンダー平等を実現しよう
10 : 人や国の不平等をなくそう

<p>⑤権利と義務との関係</p>	<p>人権に関する判例を活用しながら、権利と義務との関係について理解する。人類は人権保障に向けてどのように努力してきたか、理解している。</p> <p>【評価の観点】</p> <p>① 権利と義務との関係について、多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>② 「日本国憲法と現代政治のあり方」について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。</p>
<p>⑥議会制民主主義と世界の政治体制</p>	<p>民主主義の発展について理解するとともに、各国の政治体制について諸資料を利用して比較し、類似点や相違点を理解する。</p> <p>【評価の観点】</p> <p>① 民主政治の考え方や、議院内閣制や大統領制の特徴について、理解している。</p> <p>② よりよい民主政治のあり方について、多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③ 「日本国憲法と現代政治のあり方」について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。</p>
<p>⑦国会の組織と立法</p>	<p>国会の役割について理解し、日本国憲法下での立法のあり方について、問題点も含め、幅広い視点から考察する。</p> <p>【評価の観点】</p> <p>① 国会の地位と構成について、理解している。</p> <p>② 法律はどのようにして成立するのか、理解している。</p> <p>③ 日本国憲法下での立法のあり方について、問題点も含め、幅広い視点から考察する。</p> <p>④ 「日本国憲法と現代政治のあり方」について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。</p>
<p>⑧内閣の機構と行政</p>	<p>内閣の政治機構にふれながら、それぞれの役割について理解する。日本国憲法下での行政のあり方について、問題点も含め、幅広い視点から考察する。</p> <p>【評価の観点】</p> <p>① 内閣の役割について理解する。</p> <p>② 日本国憲法下での行政のあり方について、問題点も含め、幅広い視点から考察する。</p> <p>③ 「日本国憲法と現代政治のあり方」について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。</p>
<p>⑨裁判所の機能と司法制度</p>	<p>裁判所の組織と機構にふれながら、それぞれの役割について理解する。日本国憲法下での司法のあり方について、問題点も含め、幅広い視点から考察する。</p> <p>【評価の観点】</p> <p>① 裁判所の役割について理解する。</p> <p>② 日本国憲法下での司法のあり方について、問題点も含め、幅広い視点から考察する。</p> <p>③ 裁判員制度について理解し、報道資料などから国民の司法参加の意義を考察するとともに、刑罰の意義や犯罪被害者の救済、犯罪者の更生のあり方について考察する。</p> <p>④ 「日本国憲法と現代政治のあり方」について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。</p>
<p>SDGs 番号 16：平和と公正をすべてのひとに</p> <p>第2節 望ましい政治のあり方と主権者としての政治参加のあり方</p> <p>①地方自治制度と住民の権利</p>	<p>地方自治の本旨を把握しながら、地方分権と住民の権利について理解し、国と地方の関係を考察する。</p> <p>【評価の観点】</p> <p>① 地方自治の本旨の意味と日本の地方自治制度、政党の意義と役割について理解している。</p> <p>② 地方自治における住民の権利と住民運動の意義について、多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③ 「望ましい政治のあり方と主権者としての政治参加のあり方」について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。</p>
<p>②政党政治と選挙</p>	<p>政党政治や選挙、国民の政治意識や政治行動の特徴などを理解しながら、政治や選挙への関心を高める。選挙結果や投票率の動向などを、さまざまな情報手段を活用して調査し、主権者としての政治参加のあり方について考察、構想する。日本の選挙制度について把握しながら、政党や圧力団体の行動とその意義を理解する。</p> <p>【評価の観点】</p> <p>① 政党の意義と役割について理解している。</p> <p>② 政党政治や選挙、国民の政治意識や政治行動の特徴などを理解している。</p> <p>③ 日本の政党政治や選挙の課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>④ 望ましい政治のあり方および主権者としての政治参加のあり方について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。</p> <p>⑤ 「望ましい政治のあり方と主権者としての政治参加のあり方」について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。</p>
<p>1学期の評価方法</p>	<p>・ パフォーマンス課題、定期考査</p>

夏季休業課題および1学期の復習	
第3節 市場経済の機能と限界 ① 経済活動と市場	資本主義経済の特徴や現代経済の特質について理解する。市場の基本である「需要と供給との関係」について、正しく理解する。 【評価の観点】 ① 経済の役割と、市場経済における人々の選択について、理解している。 ② 資本主義経済の特質とその変容について、理解している。 ③ 価格はどのようにして決まるのか、具体的な市場を取り上げて多面的・多角的に考察し、表現している。
② 経済主体と経済循環	家計・企業・政府が互いにどのように関わりあいながら国民経済を構成しているのか理解する。株式会社とはどのようなものか、所有と経営の両面から理解するとともに、企業の社会的責任について考察する。 【評価の観点】 ① 三つの経済主体の活動と、経済循環における役割について、理解している。 ② 株式会社のしくみと株主との関係について、理解している。 ③ 企業の社会的責任のあり方について、多面的・多角的に考察し、表現している。
③ 国民経済の大きさと経済成長	国民所得の構成や景気変動、経済成長について、諸資料を利用して、日本と諸外国の現状を比較する。 【評価の観点】 ① ストックとフローの概念や、GDPなどの指標について、理解している。 ② 経済成長率における名目と実質の違いや、経済成長の要因について、理解している。
④ 物価と景気変動	物価の変動要因を理解するとともに、物価の変動が国民経済に及ぼす影響について考察する。 【評価の観点】 ① インフレとデフレの原因と影響、景気変動のしくみについて、理解している。物価や景気の変動に対する政府の施策について、理解している。
⑤ 市場の失敗と公害・消費者問題	さまざまな市場の失敗の事例と、その弊害について、理解している。公害と消費者問題に対する施策について理解している。 【評価の観点】 ① 独占、寡占状態の市場での消費者に対する影響と、その弊害を排除するための措置について理解する。 ② 市場の失敗に関連して、公害や消費者問題などの社会問題への対策のあり方について考察する。 ③ 自立した消費者としてどのような行動をとるべきか、多面的・多角的に考察し、表現している。 ④ 市場の機能と限界や解決のあり方について、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 ⑤ 「市場経済の機能と限界」について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。
SDGs 番号 12：つくる責任つかう責任	
第4節 持続可能な財政および租税のあり方 ① 財政のしくみと租税の意義	財政の基本的なしくみや役割、租税の意義やその用途について理解する。日本の財政の現状について、公債残高が膨張していることを理解するとともに、将来に及ぼす影響を考察する。 【評価の観点】 ① 財政の機能としくみについて、理解している。 ② 租税の種類やその特徴について、理解している。 ③ 財政における国と地方の役割分担について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ④ 持続可能な財政のあり方を多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 ⑤ 「持続可能な財政および租税のあり方」について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。
第5節 金融を通じた経済活動の活性化 ① 金融のしくみとはたらき	金融のしくみや役割、日本銀行の金融政策、金融の自由化などの金融に関する環境の変化を理解する。 【評価の観点】 ① 金融のはたらきと金融機関の役割について、理解している。 ② 日本銀行の金融政策とその影響について、理解している。 ③ 現在の金融をめぐる動向とその課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ④ 金融を通じた経済活動の活性化のしくみやあり方を多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 ⑤ 「金融を通じた経済活動の活性化」について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。
第6節 経済活動と福祉の向上 ① 日本経済の変化と中小企業・農業問題	第二次世界大戦後の日本経済の変化および、現在の日本経済の課題について理解する。大企業と中小企業の違いや日本経済において中小企業が果たしている役割について理解する。日本の農業が直面している課題について理解する。 【評価の観点】 ① 日本経済における産業構造の変化について、理解している。 ② 現在の日本経済の現状と課題について、理解している。 ③ 日本の中小企業や農業経営者が直面している課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。

2 学 期	期末 考 査	②労使関係と労働問題	労働基本権と労働三法の基本的内容とその意義を理解する。若年層・女性・中高年・障害者・外国人労働者など最近の労働問題をさまざまな視点で考察する。 【評価の観点】 ① 労働三法の内容について、理解している。 ② 現在の日本の労働問題や、労働環境をめぐる課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。
		③社会保障制度と福祉のあり方	日本の社会保障制度を体系的に捉えるとともに、現在の制度上の問題点と課題について考察する。 【評価の観点】 ① 日本の社会保障制度について、理解している。 ② 日本の社会保障制度の課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 経済活動と福祉の向上との関連について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ④ 「経済活動と福祉の向上」について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。
		第2編 グローバル化する国際社会の諸課題 第1章 現代の国際政治・経済 第1節 国際法の果たす役割	
		①国際社会の変遷	21世紀の国際社会の動向について把握するとともに、世界情勢がどのように変化しているのか理解する。国際社会の成立過程を把握しながら、実際には国家間でさまざまな格差があることを理解する。グローバル化の進展により、国際社会ではNGOや多国籍企業など国家以外の機関や組織が活動していることを理解する。 【評価の観点】 ① 21世紀以降の国際社会の動向について、理解している。
		②国際法の意義	国際政治と国内政治の違いや、国際法や国際裁判の意義を理解する。 【評価の観点】 ① 国際法と国内法の違いや、国際法の種類や特徴について、理解している。 ② さまざまな国際裁判とそのしくみについて、理解している。 ③ 領土問題などの国際紛争の解決のあり方について、多面的・多角的に考察し、表現している。
		③国際機構の役割	国際連盟と国際連合の違いを把握しながら、国際連合の役割、国際連合が抱えている課題について理解する。 【評価の観点】 ① 勢力均衡と集団安全保障の違いについて、理解している。 ② 国際連合の機能と主要機関の役割について、理解している。 ③ 今日の国際情勢の変化を受けて、国際連合はどのような役割を強化すべきか、多面的・多角的に考察し、表現している。
		④国際紛争と軍縮への取り組み SDGs 番号 16：平和と公正をすべての人に	民族紛争を例に、複雑な国際関係を幅広い視点から考察するとともに、国際社会における文化や宗教の多様性について理解する。 【評価の観点】 ① 国際紛争はどのような原因で起きるのか、理解している。 ② 紛争当事者の変化や、平和的解決のための取り組みについて、理解している。 ③ 核兵器廃絶のために、どのような努力がなされてきたのか、多面的・多角的に考察し、表現している。 ④ 国際法の果たす役割について、国際社会の特質や国際紛争の諸要因と関連付けて、将来、国際社会においてどのような制度やしくみを作っていくことが必要か、多面的・多角的に考察し、表現している。
		■諸課題へのアプローチ 「国際法の役割と課題」	軍縮や国際平和に関する問題について、メディアを利用して調べ、その課題について考察する。 【評価の観点】 ① 「国際法の果たす役割」について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。
		第2節 国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割 ①日本の安全保障と国際貢献 ■諸課題へのアプローチ 「日本の国際貢献のあり方」	日本の防衛政策の基本理念について理解する。国際平和と人類の福祉のために日本が貢献できることについて考察する。 【評価の観点】 ① 平和主義の理念と日本の防衛政策の関連について、理解している。 ② 日米安全保障協力の変化と自衛隊の海外派遣について、理解している。 ③ 国際社会において日本がこれから果たすべき役割について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ④ 「国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割」について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。
		2学期の評価方法	・ パフォーマンス課題、定期考査
3 学 期		第3節 相互依存関係が深まる国際経済の特質 ①貿易の現状と意義	国際経済に関する基本的な概念や理論を理解する。グローバル化に伴うヒト、モノ、カネの国際的な移動が、国際経済に与える影響について、考察する。 【評価の観点】 ① 比較優位の考え方や国際分業の利点について、理解している。 ② 現在の世界と日本の貿易の現状と動向について、考察し、表現している。
		②国民経済と国際収支	国際収支の基本的な構成を把握しながら、経済摩擦の要因である不均衡が生じる原因について理解する。 【評価の観点】 ① 国際収支統計の基本的な構成について、理解している。 ② 国際収支の動向をもとに、日本の対外経済取引の現状について、考察し、表現している。

3 学 期	卒業 考查	③為替相場の変動	為替相場のメカニズムについて把握しながら、円高・円安が国内の産業にどのように影響するか理解する。 【評価の観点】 ① 変動相場制における為替相場の決定のしくみについて、理解している。 ② 日本の対ドル為替相場の推移と、日本経済の動向について、理解している。
		④国際協調と国際経済機関の役割 SDGs 番号 17：パートナーシップで目標を達成しよう	地域的経済統合やFTA・EPAについて関心を持ち、諸資料を利用しながら具体的に考察する。 【評価の観点】 ① さまざまな国際経済機関の役割や課題について、理解している。 ② 地域的経済統合やFTA・EPAの意義と課題について、考察し、表現している。
		■諸課題へのアプローチ 「国際経済の現状と課題」 SDGs 番号 10：人や国の不平等をなくそう	国民経済と国際経済の関係において、国益と地球的な規模での協調が求められている現状と問題点について理解する。 【評価の観点】 ① 国民経済と国際経済の関係において、国益と地球的な規模での協調が求められている現状と問題点について、多面的・多角的に考察、表現している。 ② 「相互依存関係が深まる国際経済の特質」について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。
		第4節 国際経済において求められる日本の役割 ①国際経済における日本の地位と国際協力 ■諸課題へのアプローチ 「国際経済の安定と成長に向けた日本の役割」	先進国と発展途上国の経済格差や新興国の台頭について把握しながら、日本が南北問題の解決に向けてどのような役割が期待されているか考察する。 【評価の観点】 ① 国際経済における日本の地位について、理解している。 ② 国際経済の安定と成長のために果たすべき日本の役割について、考察、構想し、表現している。 ③ 「国際経済において求められる日本の役割」について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。
		3学期の評価方法	・ パフォーマンス課題、定期考查

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識するべきか）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。 【評価の対象】 定期考查・単元テスト、授業中の取組状況等	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断している。 【評価の対象】 定期考查、プレゼンテーション、授業中の取組状況等	よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 【評価の対象】 レポート、パフォーマンス課題

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）

<ol style="list-style-type: none"> 1 政治・経済ノートを活用して学んだ内容を踏まえて、授業では考えを深める活動を行っています。主体的かつ計画的に学習に臨むようにしましょう。 2 主体的に学習に取り組む態度は様々な方法で評価されます。発表や課題の提出などに主体的に取り組みましょう。 3 授業中は「なぜ？」を大切にすること。 4 学習に取り組む中で疑問が生じた場合は、授業時や放課後を活用して積極的に質問をしましょう。
--

鹿児島県立徳之島高等学校シラバス	
地理総合	[地理歴史]
履修学科	総合学科
履修学年	第3学年
履修単位	2単位
教科書	『高等学校 地理総合－世界を学び、地域をつくる』（第一学習社） 『基本地図帳 改訂版』（山川出版社）
副教材	授業用プリントを使用

科目目標
<p>社会的諸事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>(3) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。</p>

学期	単元名（考査範囲）	学習活動
1 学 期	第1編 1章 地図や地理情報システムと現代世界 1節 球面上の世界と地図	地球上の位置は緯度や経度で表すことができる。地球上の位置の違いは、私たちの生活にどのような影響を与えているのだろうか。また、時差は私たちの生活とどのように結び付いているのだろうか。
	(1) 目的地への行き方	【評価の観点】 ① 地図を持たない人々の生活を想像し、地図の有用性に気づくとともに、利用しやすい工夫が現在まで続けられていることを理解する。
	(2) 地球上の位置	① 緯度・経度の基本的なしくみ、緯度の違いが生活に与える影響について理解している。 ② 緯度・経度の基本的なしくみ、緯度の違いが生活に与える影響について、多面的・多角的に考察し、表現している。
	(3) 世界の時差	① 時差のしくみ、時差が生活に与える影響について理解している。 ② 時差のしくみ、時差が生活に与える影響について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 時差のしくみ、時差が生活に与える影響について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
	(4) 世界地図の見方・使い方	① 球体の地球と平面の地図、さまざまな地図投影法(図法)について理解している。 ② 球体の地球と平面の地図、さまざまな地図投影法(図法)について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 球体の地球と平面の地図、さまざまな地図投影法(図法)について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
	(5) 地図から読み取る情報	① 身の回りの主題図やさまざまな一般図の表現方法や用途について理解している。 ② 身の回りの主題図やさまざまな一般図の表現方法や用途について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 身の回りの主題図やさまざまな一般図の表現方法や用途について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
	(6) デジタル化された地図 (7) 地理情報システムの活用	① 地理情報システム(GIS)のしくみやこれを支える技術、GISの活用場面について理解しており、基礎的・基本的な技能を身に付けている。 ② 地理情報システム(GIS)のしくみやこれを支える技術、GISの活用場面について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 地理情報システム(GIS)のしくみやこれを支える技術、GISの活用場面について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

1 学 期	2節 国家の結びつきとグローバル化する社会	世界にはさまざまな国家がある。国家の領域や国境はどのように定まっているのだろうか。また、日本の位置や領域にはどのような特徴があるのだろうか。
	(1) 国家の領域と国境	【評価の観点】 ① 国境の種類、国家の領域、国家の主権について理解している。 ② 国境の種類、国家の領域、国家の主権について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 国境の種類、国家の領域、国家の主権について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
	(2) 日本の領域とさまざまな領土問題	① 日本の位置と領域、排他的経済水域の特徴、日本の領土をめぐる問題について理解している。 ② 日本の位置と領域、排他的経済水域の特徴、日本の領土をめぐる問題について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 日本の位置と領域、排他的経済水域の特徴、日本の領土をめぐる問題について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
	(3) 国家をこえた結びつき	① 国際関係と紛争の変化、国連が果たす役割、経済のグローバル化と地域ごとの経済的な結びつきについて理解している。 ② 国際関係と紛争の変化、国連が果たす役割、経済のグローバル化と地域ごとの経済的な結びつきについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 国際関係と紛争の変化、国連が果たす役割、経済のグローバル化と地域ごとの経済的な結びつきについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> SDGs 番号 16：平和と公正をすべてのひとに </div>	
	(4) 交通機関の発達と縮小する世界	① 世界を結ぶ航空交通の発達、貿易を支える海上交通の発達、陸上交通の発達と変化について理解している。 ② 世界を結ぶ航空交通の発達、貿易を支える海上交通の発達、陸上交通の発達と変化について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 世界を結ぶ航空交通の発達、貿易を支える海上交通の発達、陸上交通の発達と変化について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
	(5) 情報・通信で一体化する世界	① 通信技術の発達と一体化する世界、情報通信技術の発達で変化する生活行動、生み出される格差について理解している。 ② 通信技術の発達と一体化する世界、情報通信技術の発達で変化する生活行動、情報通信技術が生み出す格差について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 通信技術の発達と一体化する世界、情報通信技術の発達で変化する生活行動、情報通信技術が生み出す格差について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
	(6) 拡大する世界の貿易と物流	① 暮らしを支える貿易、貿易の変化と国際分業の成立、自由化する世界の貿易について理解している。 ② 暮らしを支える貿易、貿易の変化と国際分業の成立、自由化する世界の貿易について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 暮らしを支える貿易、貿易の変化と国際分業の成立、自由化する世界の貿易について、よりよい社会の実現を視野にして課題を主体的に追究、解決しようとしている。
(7) グローバル化と人の移動による結びつき	① 多様なアイデンティティを持つ世界の人々と共生していくために他者の文化を尊重し、自らの文化について理解している。 ② 多様なアイデンティティを持つ世界の人々と共生していくために他者の文化を尊重し、自らの文化について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 多様なアイデンティティを持つ世界の人々と共生していくために、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。	
1学期の評価方法	授業態度、定期考査	

2 学 期	第2編 国際理解と国際協力 1章 生活・文化の多様性と国際理解	地球上には、高く険しい山脈や広大な平原、深い谷などの多様な地形がある。人々 はこうした地形とどのように関わっているのだろうか。そして、世界各地ではどのよう な生活が営まれているのだろうか。
	(1) 世界の生活・文化を写真でつかもう	【評価の観点】 ① 地理的環境によって人々の生活様式の地域的差異が生じていることを理解する。 ② 世界の生活・文化を示した写真を閲覧しながら、写真中の地理的環境を読み取るこ とができる。
	(2) 人々の生活に彩りを与える気候 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> SDGs 番号 13：気候変動に具体的な対策を </div>	① 気候(熱帯・乾燥帯・温帯・冷帯・寒帯)が生活に与える影響、気温のしくみと分布 の特徴、風(大気大循環・季節風)のしくみと風が及ぼす生活への影響、降水のしく みと分布の特徴について理解している。 ② 気候(熱帯・乾燥帯・温帯・冷帯・寒帯)が生活に与える影響、気温のしくみと分布 の特徴、風(大気大循環・季節風)のしくみと風が及ぼす生活への影響、降水のしく みと分布の特徴について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 気候(熱帯・乾燥帯・温帯・冷帯・寒帯)が生活に与える影響、気温のしくみと分布 の特徴、風(大気大循環・季節風)のしくみと風が及ぼす生活への影響、降水のしく みと分布の特徴について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体 的に追究、解決しようとしている。
	(3) 「衣」から見る世界 (4) 「食」から見る世界 (5) 「住」から見る世界	① 自然環境や社会環境などを反映して形成されてきた伝統的な衣食住の生活文化 にはどのような傾向があり、世界的な画一化の動きとどのように関わっているかにつ いて理解している。 ② 自然環境や社会環境などを反映して形成されてきた伝統的な衣食住の生活文化 にはどのような傾向があり、世界的な画一化の動きとどのように関わっているかにつ いて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 衣食住について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追 究しようとしている。
	(6) 暮らしを豊かにする産業	① 資源・エネルギーや農業・工業などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間 的な規則性や、資源・エネルギー、食料問題の現状や要因、解決に向けた取り組み などについて理解している。 ② 資源・エネルギーや農業、工業などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所 の結びつきなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向 性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現して いる。 ③ 資源、産業について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に 追究しようとしている。
	(7) 宗教と人々の暮らし	① 宗教の食生活への影響、宗教と生活の関わりについて理解している。 ② 宗教の食生活への影響、宗教と生活の関わりについて、多面的・多角的に考察し、 表現している。 ③ 宗教の食生活への影響、宗教と生活の関わりについて、よりよい社会の実現を視 野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
	(8) 暮らしを楽しむための文化 (9) 多様性に富んだ世界の人々との共生	① 祭りやスポーツ、音楽などの伝統と現代社会の影響を受け、変化が見られる事例を 学び、他者の文化を尊重するとともに、自らの文化について理解している。 ② 祭りやスポーツ、音楽などの伝統と現代社会の影響を受け、変化が見られる事例を 学び、他者の文化を尊重するとともに、自らの文化について、多面的・多角的に考察 し、表現している。 ③ 祭りやスポーツ、音楽などの伝統と現代社会の影響を受け、変化が見られる事例を 学び、他者の文化を尊重するとともに、自らの文化について、主体的に追究しようと している。
	第2編 国際理解と国際協力 2章 地球的課題と国際協力 1節 持続可能な社会を目指して <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> SDGs 番号 13：気候変動に具体的な対策を 14：海の豊かさを守ろう 15：陸の豊かさを守ろう </div>	私たちが住む地球の各地では、人間の経済活動などにより、さまざまな地球環境問 題が生じている。世界ではどのような地球環境問題がみられ、どのような取り組みが行 われているのだろうか。

2 学 期	(1) 持続可能な開発目標 (SDGs) (2) 地球的課題の地理的な側面	【評価の観点】 ① 地球的課題の背景にある経済格差、地球的課題の解決に向けての取り組みや私たちにできることについて理解している。 ② 地球的課題の背景にある経済格差、地球的課題の解決に向けての取り組みや私たちにできることについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 地球的課題の背景にある経済格差、地球的課題の解決に向けての取り組みや私たちにできることについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
	2節 すべての人々の尊厳と平等が守られた社会に向けて <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">SDGs 番号 1: 貧困をなくそう 2: 飢餓をゼロに 10: 人や国の不平等をなくそう 16: 平和と公正をすべてのひとに</div>	現在、直面している地球的課題にはどのようなものがあるかに注目し、それらは相互に関連し、地域によって現れ方が異なることを、貧困、人口、食料、水資源、健康福祉、教育・ジェンダーなどの問題解決のためにどのような取り組みが行われているのだろうか。
	(1) 貧困問題 (2) 人口問題 (3) 食料問題 (4) 持続可能な水の利用 (5) 健康・福祉問題 (6) 教育・ジェンダー問題	【評価の観点】 ① 世界各地で見られる貧困、人口、食料、水資源、健康福祉、教育・ジェンダーについて、地球的課題の各地で共通する傾向性や課題について知り、その解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取り組みや国際協力が必要であることなどについて理解する。 ② 世界各地で見られる貧困、人口、食料、水資源、健康福祉、教育・ジェンダーについて、地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ③ 世界各地で見られる貧困、人口、食料、水資源、健康福祉、教育・ジェンダーについて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。
	2学期の評価方法	授業態度、定期考査

3 学 期	第3編 持続可能な地域づくりと私たち 1章 自然環境と防災	世界や日本の各地で発生する自然災害は、その地域の地形や気候といった自然環境と密接に結び付いている。日本の地形や気候には、どのような特徴があるのだろうか。
	(1) 地球規模で見る地形の姿と自然災害 (2) 人々の暮らしを取りまく自然環境	【評価の観点】 ① 世界の大地形、日本の地体構造、日本の気候について理解している。 ② 日本の地体構造、日本の気候について多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 世界の大地形、日本の地体構造、日本の気候の概観について、主体的に追究しようとしている。
	(3) 変動帯の自然と防災 (4) 湿潤地域の自然と防災	① 地震の種類と特徴、火山の分布・恩恵・災害の特徴、風水害の特徴、積雪による災害など、地域で異なる災害について理解しており、地理的技能を身に付けている。 ② 地震の種類と特徴、火山の分布・恩恵・災害の特徴、風水害の特徴、積雪による災害など、地域で異なる災害について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 地震の種類と特徴、火山の分布・恩恵・災害の特徴、風水害の特徴、積雪による災害など、地域で異なる災害について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
	(5) 私たちができる災害への備え	① 自らが住む地域の防災について、自助・共助・公助、復旧・復興の取り組みについて理解しており、地理的技能を身に付けている。 ② 自らが住む地域の防災について、自助・共助・公助、復旧・復興の取り組みや、ハザードマップや緊急地震速報の有用性を認識するとともに、災害に見舞われた際になるべく減災できるような取り組みについて、協働しながら多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 自らが住む地域の防災について、自助・共助・公助、復旧・復興の取り組みについて、これまで学んだ対策を組み合わせるために必要な行動について、主体的に追究、解決しようとしている。
	3学期の評価方法	授業態度、定期考査

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的にしらべまとめる技能を身に付けている。</p> <p>【評価の対象】 定期考査・単元テスト、 授業中の取組状況等</p>	<p>地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。</p> <p>【評価の対象】 定期考査 授業中の取組状況等</p>	<p>地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするこの大切さについての自覚などを深める。</p> <p>【評価の対象】 レポート</p>

授業を受けるときの約束事・学習の方法・成績について

【授業の受け方】

- ① アクティブラーニングの授業であるため、グループで討議等を行います。
- ② 授業中は「なぜ？(Why 思考)」を大切にすること。
- ③ 社会参画していく上で、個々人で地理的諸課題の解決策を考えながら、これら問題を解決するために我々自身でできることなど自分ごととして考えていきましょう。

【評価について】

- ① 知識・技能:定期考査、授業中の取組状況等
- ② 思考・判断・表現:定期考査、授業中の取組状況等
- ③ 主体的に学習に取り組む態度:レポート、パフォーマンス課題

【プリントの書き方】

ノートは必要ありません。プリントを準備します。メモを残しておくことが大切です。授業後に調べたり、質問したりすることで、より確かな知識となります。メモを取りやすいように大きな付箋紙を準備して気になったことはその都度書いて貼り、整理しておきましょう。自分で考えたり、感じたり、疑問に思ったりしたことが大変重要です。

【勉強の進め方】

日々の授業の内容が基本です。必ず復習をして授業の内容を理解してください。